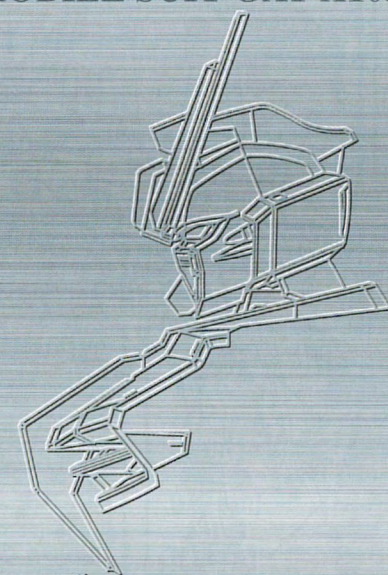




MOBILE SUIT  
GAT-X105E

# STRIKE NOIR GUNDAM

O.M.N.I. ENFORCER  
MOBILE SUIT GAT-X105E



地球連合軍新型モビルスーツ  
GAT-X105E  
「ストライクノールガンダム」  
1/100スケール マスターグレードモデル

## STRIKE NOIR GUNDAM

O.M.N.I. ENFORCER MOBILE SUIT GAT-X105E



GUNDAM SEED



GUNDAM SEED

BANDAI 2007 MADE IN JAPAN

地球連合軍新型モビルスーツ  
GAT-X105E  
「ストライクノールガンダム」  
1/100スケール  
マスターグレードモデル



0148997



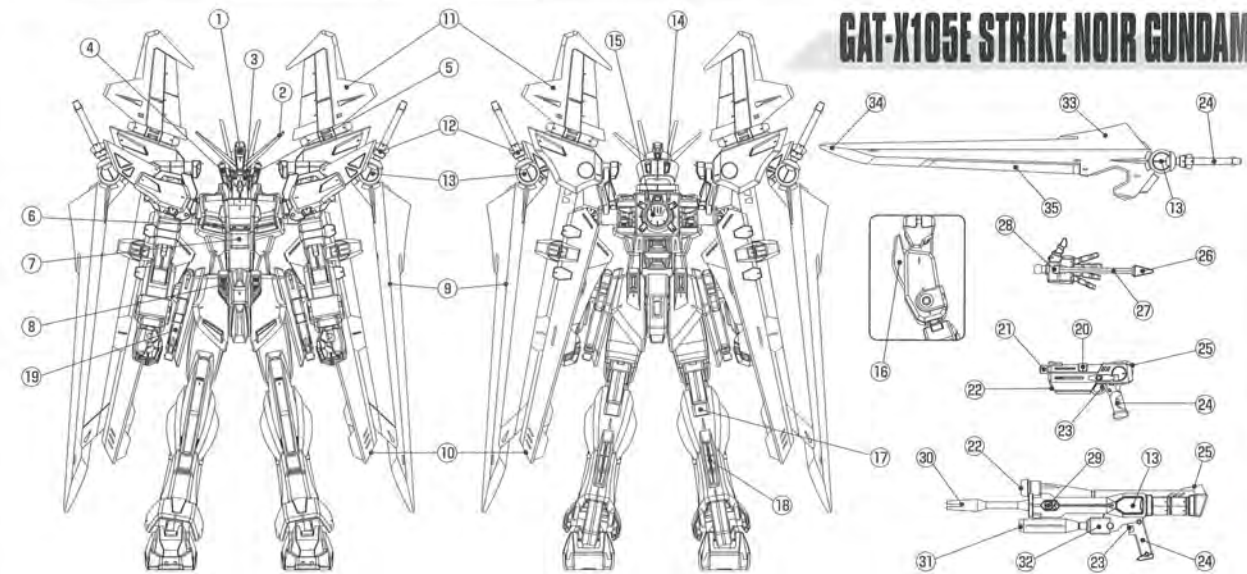
# GAT-X105E STRIKE NOIR GUNDAM

GAT-X105E ストライクノールは、傑作機X105 ストライクのバリエーション機として、アクティオン・インダストリー社をリーダーとする複数の企業によって改修がほどこされた機体である。原型となったX105の基本性能はそのままで、操作性、省電力性に大きな改良が加えられ、制御用AI(人工知能)の改良とあわせてナチュラルのパイロットにもきわめて扱いやすい機体へと成熟を遂げている。稼働時間を延伸するため、モルゲンレーテ社が開発したパワーエクステンダーを標準で装備し、PS装甲の有効域がその名称の由来となっているストライカーバックにまで拡張された。PS装甲アクティブ時の機体色が黒色ベースなのは、パワーエクステンダーの搭載による色相シフト効果に応用したものだ。105シリーズはストライカーバック兵装の換装により、あらゆる用途への適応が可能だが、ファントムペインは本機の改修にあたって、近接戦闘に特化した仕様追加を要求した。それにとめない、機体各所には新たにアンカーランチャーが新設された。専用兵器として新規開発されたM8F-SB1ビームライフルショーティはフルサイズのビームライフルをほとんどハンドガンサイズまで大幅に切り詰めたモデルとなっている。

X105シリーズは、基本性能の高い汎用モビルスーツを中核に据え、換装式兵装ストライカーバックシステムを結合することで機体の性格を変え、時々刻々と推移する戦況に基づく運用要求に応じようとするものだ。しかし、このコンセプトの実現には、熟練したパイロットと整備クルー、それに高度なメンテナンス設備が必要であった。また、運用にあたっては、戦況分析を詳細におこなわなければ本機の特性を十分に生かすことはできない。こうした点を踏まえて開発されたのが、ノールストライカーの原型となったAQM/E-M1 統合兵装ストライカーバック(IWSP)である。IWSPは、X105 ストライクと同時に実戦投入された3種類のストライカーバックをその名の通り、一つに統合しまとめたものだ。ファントムペインは、X105とIWSPの組み合わせにより、数度の実戦をおこなった。その結果、専任パイロットであるスウェン・カル・バヤンの操縦によって得られたデータから、機体の改修、ならびに新型ストライカーバック・ノールストライカーを近接戦闘に特化した装備として開発する方針が固められたのである。特殊化とのトレードオフで失われた汎用性は、X1022 プルテュエル、X103AP ヴェルデバスターを組み合わせた小隊編制を取ることで補完するものとした。その結果はきわめて良好で、部隊の要求を十分に満たすものであった。3機は各地を転戦し、大きな戦果を上げたものと思われる。しかし、いわゆる「汚れ仕事」を専門とする非正規部隊の性格上、ファントムペインの作戦内容はそのほとんどが公式には存在しないものとされている。DSSD(深宇宙探査開発機構)の地球軌道トラステーション襲撃事件に関与していたという説もあるが、確認はなされていない。



Conceptual illustration : BEE-CRAFT



- |                  |                        |                    |                   |
|------------------|------------------------|--------------------|-------------------|
| ① メインカメラ         | ⑨ MR-Q10フラガラッハ3ビームブレイド | ⑬ 脚部アンカーランチャーアクセスタ | ⑲ ポリマー被覆ワイヤー      |
| ② ブレードアンテナ       | ⑩ MAU-M3E4二連装リニアガン     | ⑭ アンカー射出口          | ⑳ アンカーヘッド         |
| ③ デュアルセンサー/サブカメラ | ⑪ 垂直空力制御翼              | ⑮ ビームレギュレーター       | ㉑ パワーチョーク         |
| ④ M2M5トースシュレッケン  | ⑫ ビームサーベル              | ⑯ パワーチョーキングマズル     | ㉒ マズル             |
| ⑤ エグゾースト         | ⑬ パワーレギュレーター           | ㉓ センサー             | ㉔ 175mmグレナードランチャー |
| ⑥ インテーク/ダクト      | ⑭ リアセンサー               | ⑰ トリガー             | ㉕ 多目的マウント/ステー     |
| ⑦ コクピットハッチ       | ⑮ アーメントハブ/ロッキングコネクター   | ⑱ グリップ             | ㉖ スタップドセンサー       |
| ⑧ ダクト/スラスター      | ⑯ アンカーランチャーアクセスタ       | ㉗ パワージェネレーター       | ㉘ PSポイント          |
|                  | ⑰ 衝撃緩衝関節               | ㉙ ビームエッジ           |                   |

## 組み立て前の基本説明

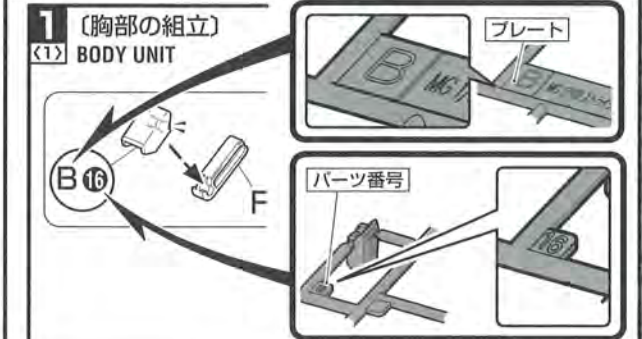
### 必要な道具

- 〈ニッパー(プラスチック用)〉
  - ・パーツをランナーから切りはなしてゲートを取るのに使います。
- 〈ピンセット〉
  - ・小さい部品を取り付けたりシールを貼るのに便利。
- 〈はさみ〉
  - ・ガンダムデカールを切りはなす際に使用します。
- 〈+(プラス)ドライバー〉
  - ・ビスを締める際に使用します。

※この商品に道具類は入っていないので、別にご用意ください。

### 説明書の見かた

説明書のパーツに書いてある番号と同じものをランナーから探しましょう。(パーツリスト表と合わせて見ると、探しやすいでしょう。)

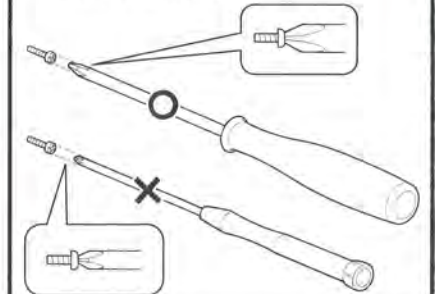


### パーツの切り取りかた

- まず、パーツから少し離れた位置にニッパーの刃を入れて切り取ります。
- パーツを切り離して持ちやすくなったところでゲート跡の処理に入ります。
- ニッパーの刃をパーツに密着させてゲートを切り取れば、きれいに仕上がります。

### ドライバーの選びかた

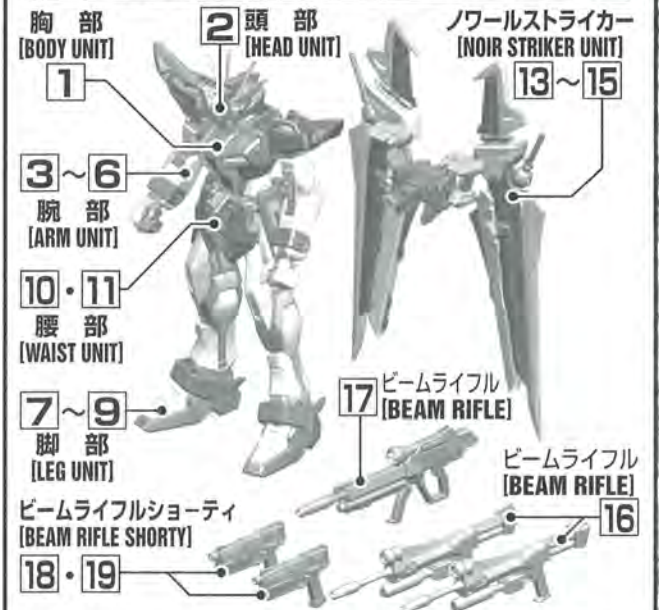
※ビスに合ったドライバーをご使用ください。サイズの合わないドライバーを使用するとビスを破損してしまう場合があります。



### ガンダムデカールの貼りかた

- ガンダムデカールは、転写するマークを保護シートと一緒にマークより大きめに切り出してください。
  - 保護シートをはがし、貼る位置を決めてから、ずれないようにセロハンテープ等で固定し、マークの上からボールペン等の先端の丸い物でこすりつけて定着させます。
  - シートを静かにはがし、デカールが定着していない部分が残った場合はシートを元に戻し、その部分を再度こすりつけます。
- ※デカールを貼り間違えた場合は、セロハンテープ等ではがしてください。

### 説明書をよく読んで完成させましょう



【基本説明】 HOW TO  
 【部品表】 PARTS LIST  
 【胸部】 BODY UNIT  
 【頭部】 HEAD UNIT  
 【腕部】 ARM UNIT  
 【腰部】 WAIST UNIT  
 【脚部】 LEG UNIT  
 【武器】 WEAPONS  
 【シール】 SEAL



**注意**

必ずお読みください

- この商品の対象年齢は15才以上です。〈鋭い部品がありますので、安全上15才未満には適しません。〉
- 小さな部品があります。口の中には絶対に入れないでください。窒息などの危険があります。
- ビニール袋を頭から被ったり、顔を覆ったりしないでください。窒息する恐れがあります。
- 小さなお子様のいるご家庭では、お子様の手の届かないところへ保管し、お子様には絶対に与えないでください。

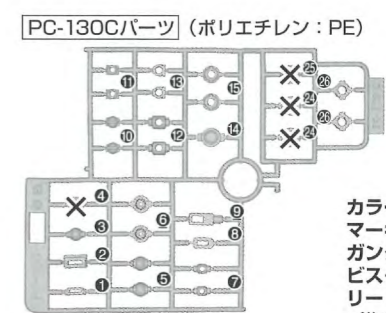
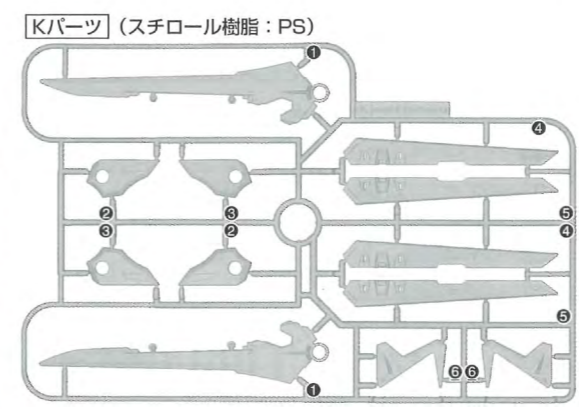
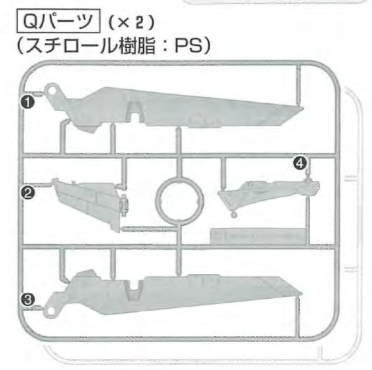
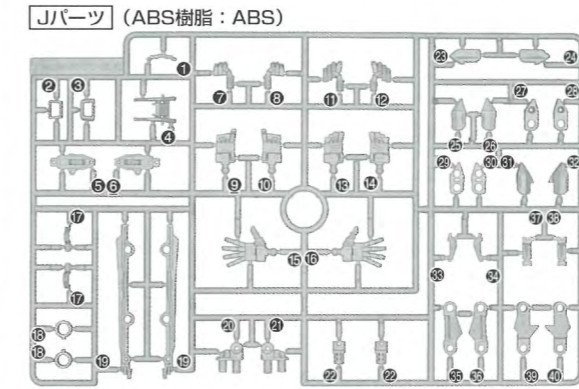
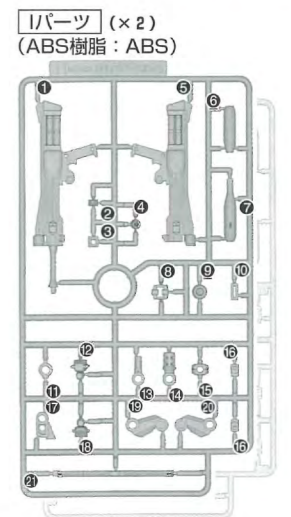
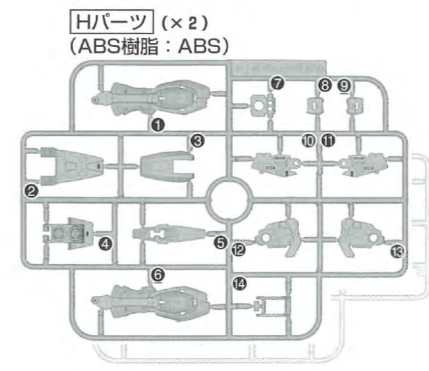
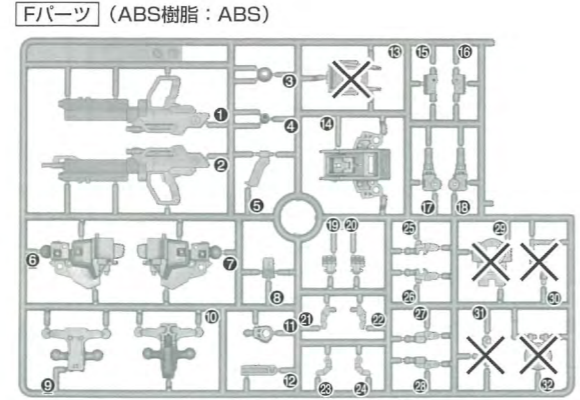
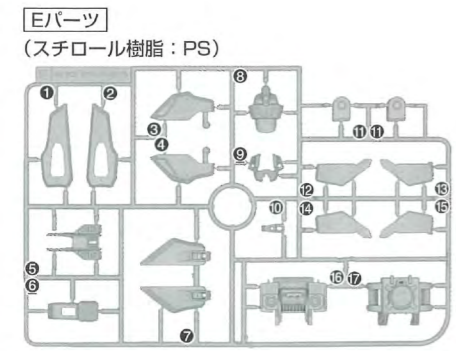
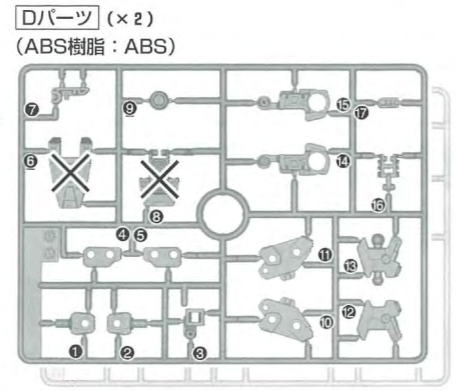
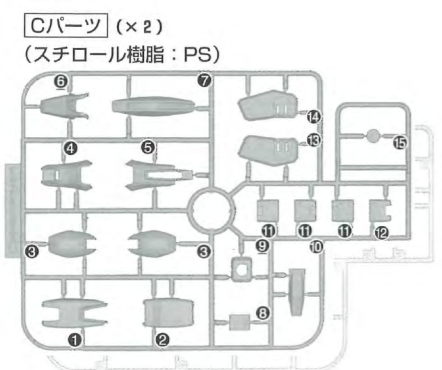
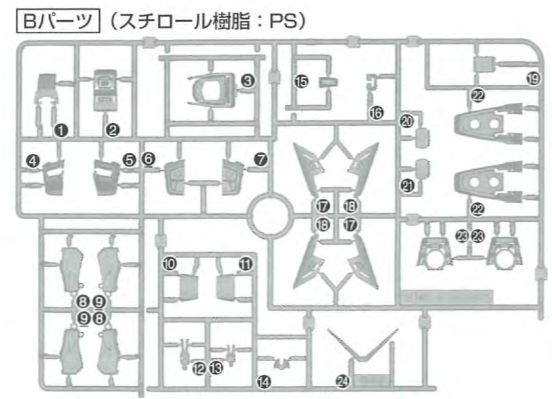
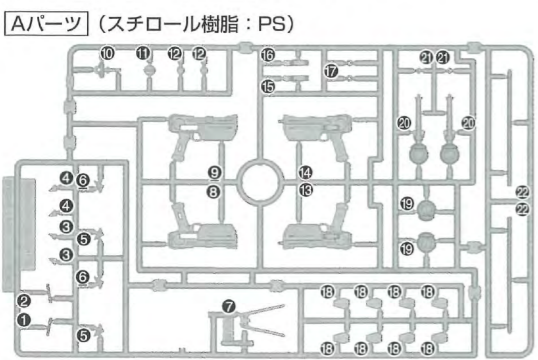
※このキットの組み立てには+（プラス）ドライバーをしますので別にご用意ください。

・接着をするところ	・シールの番号	・デカールの番号	・反対側に取り付けるパーツ	・両側に同じパーツを取り付ける	・向きに注意して取り付ける	・ビスの締めすぎに注意
・切り取るところ	・部品を数値の個数作ります	・先に組み立てます	・後に組み立てます	・数値に合わせて回転させます	・どちらかを選んで取り付ける	・反対側も同じように動かしします

〈組み立てる時の注意〉

- 組み立てる前に説明書をよく読みましょう。
- 部品は番号を確かめ、ニッパーなどできれいに切り取りましょう。
- 部品の加工の際の刃物、工具、塗料、接着剤などのご使用にあたっては、それぞれの取扱説明書をよく読んで正しく使用してください。
- 部品の中には、やむをえず、とがった所があるものもありますが、気をつけて組み立ててください。
- 塗装にはより安全な「水性塗料」のご使用をおすすめします。

パーツリスト (×印は使用しないパーツです。)



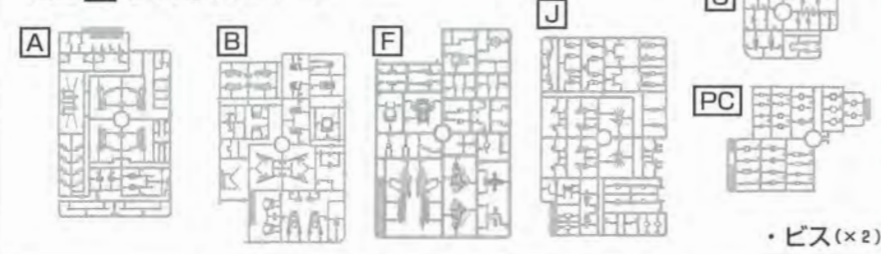
- カラーシール.....1枚
- マーキングシール.....1枚
- ガンダムデカール.....1枚
- ビス.....4本
- リード線.....2本 (塩化ビニル樹脂: PVC)



# 1 BODY UNIT

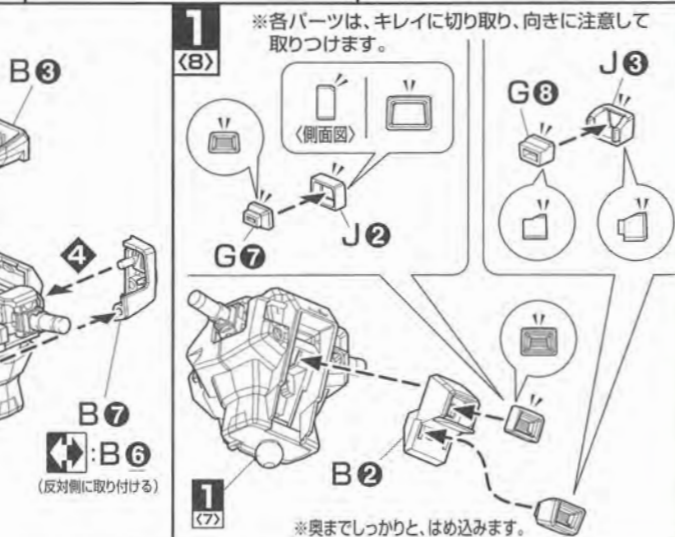
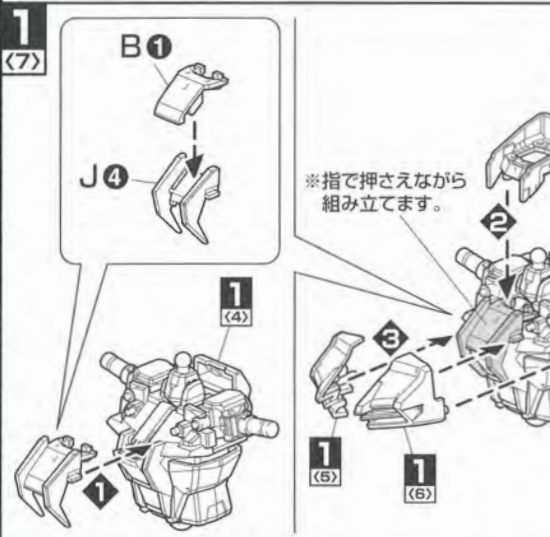
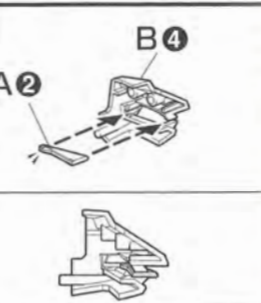
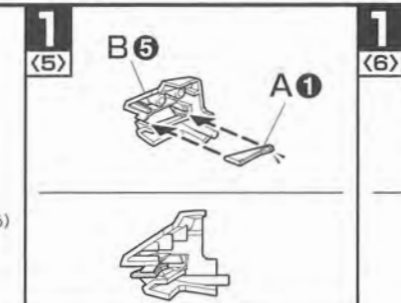
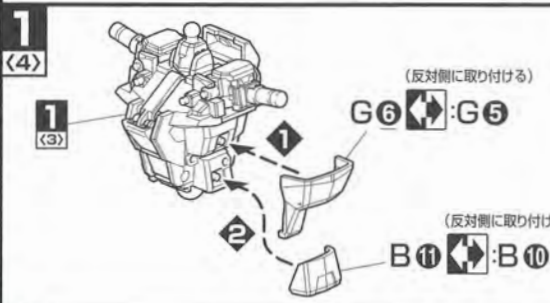
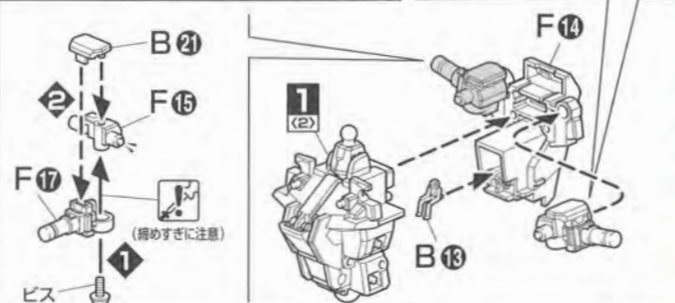
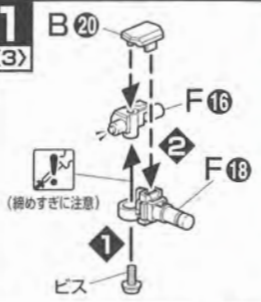
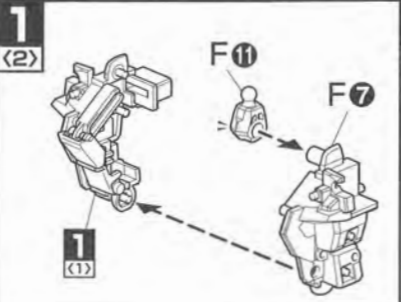
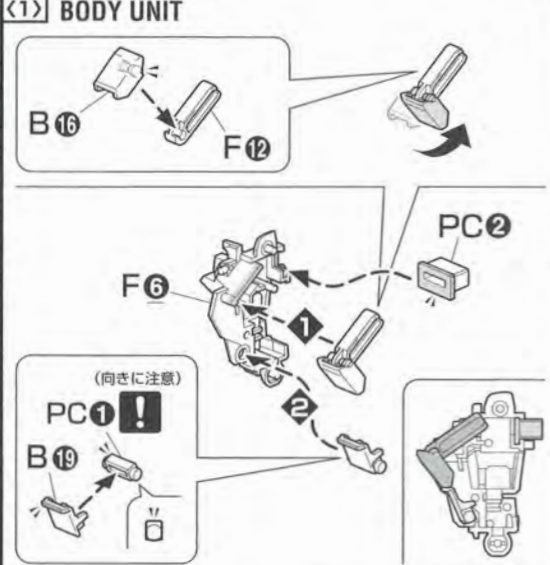


・組立1で使用するパーツ



・ビス(×2)

## 1 (胸部の組立) BODY UNIT



※奥までしっかりと、はめ込みます。

# HEAD UNIT (頭部)

X105Eの頭部には、クライアントであるファントムペインの仕様要求に基づき、近接戦闘行動に特化した構造変更が加えられた。

外見上、もっとも目を引く相違点はフェイスプレート中央の冷却スリットの位置変更である。従来はフェイスガード中央部に設けられていた二連スリットが、X105Eでは左右に振り分けられている。これは、頭部機関砲イーゲルシュテルンの改良されたことによる給弾経路の変更と、新たに搭載された強化型統合センサーシステムのレイアウト変更によって、熱処理ダクトの取り回し配置を再設計する必要が生じたためである。イーゲルシュテルンの給弾経路変更は、弾薬の変更による発射サイクルの向上に対応し、給弾速度を上げるための措置である。チークガード部の断面形状は、従来のシンプルなものから冷却スリットに連動したインテイクを備えた複雑な形状に変更された。複層化された装甲レイヤーには、新たに環境センサーが設置され戦闘時の即応能力を向上させている。また、頭部ブレードアンテナのエレメント形状と取り付け角度が変更された。シンプルなストレートタイプに改められたエレメントには、新開発の誘電構造体が採用されている。これは、第81独立機動群(ファントムペインの正式名称)が採用している近距離デジタルバースト通信システムのアップデートに対応するための改修で、近接戦闘時の僚機とのデータ通信の信頼性向上を目的としている。



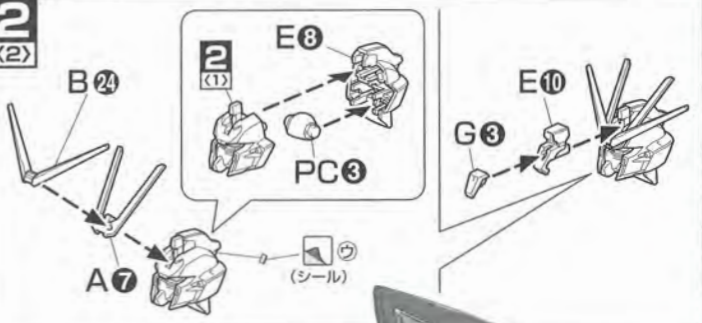
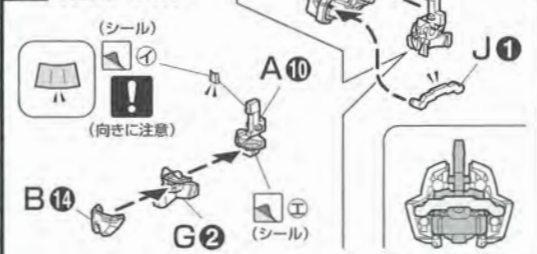
## 2 HEAD UNIT

・組立2で使用するパーツ



・シール

### 2 (頭部の組立) HEAD UNIT



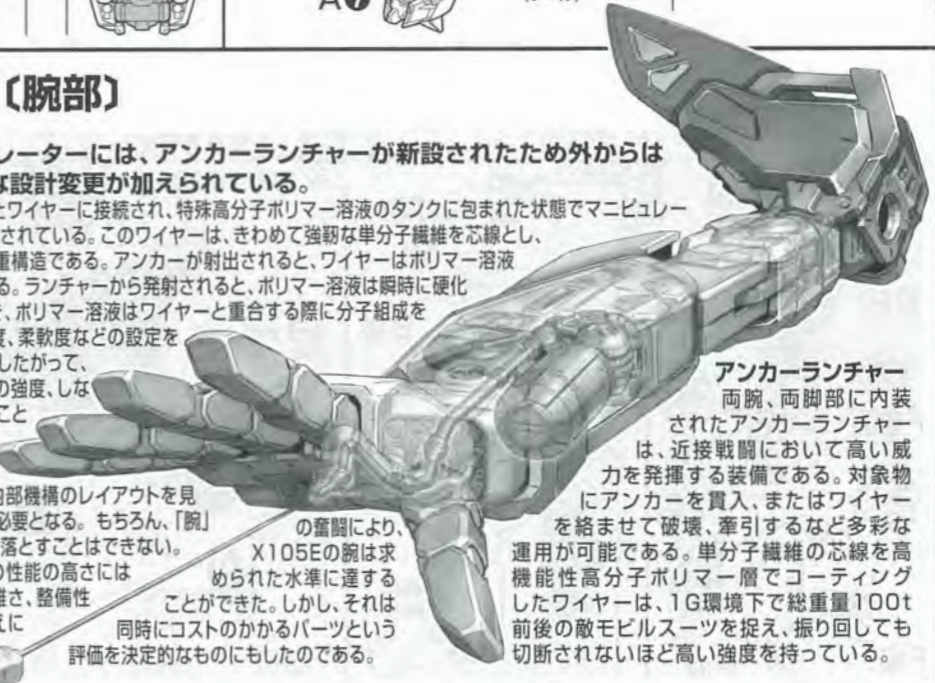
# ARM UNIT (腕部)

X105Eの腕部マニピュレーターには、アンカーランチャーが新設されたため外からは見ることのできない大きな設計変更が加えられている。

アンカーはリールに巻き取られたワイヤーに接続され、特殊高分子ポリマー溶液のタンクに包まれた状態でマニピュレーターの肘部より先、下腕内部に収納されている。このワイヤーは、きわめて強靱な単分子繊維を芯線とし、その周囲をポリマーが被覆する二重構造である。アンカーが射出されると、ワイヤーはポリマー溶液の層を通り抜け、外部に繰り出される。ランチャーから発射されると、ポリマー溶液は瞬時に硬化してワイヤーを被覆する。このとき、ポリマー溶液はワイヤーと重合する際に分子組成を調整されるため被覆層の厚み、硬度、柔軟度などの設定を自由に変更することが可能である。したがって、ワイヤーは細さ、太さはもとよりその強度、しなやかさまで状況に応じて変化させることができ、幅広い用途に対応する。

しかし、この複雑なランチャーの機構を内装するためには、従来の内部機構のレイアウトを見直し、コンパクトに再設計することが必要となる。もちろん、「腕」としてのマニピュレーターの強度を落とすことはできない。X105Eの腕は求められた水準に達する定評があったが、それは機構の複雑さ、整備性の悪さなどのデメリットと引き換えに同時にコストのかかるパーツという評価を決定的なものにしたのである。

の奮闘により、X105Eの腕は求められた水準に達する定評があったが、それは機構の複雑さ、整備性の悪さなどのデメリットと引き換えに同時にコストのかかるパーツという評価を決定的なものにしたのである。

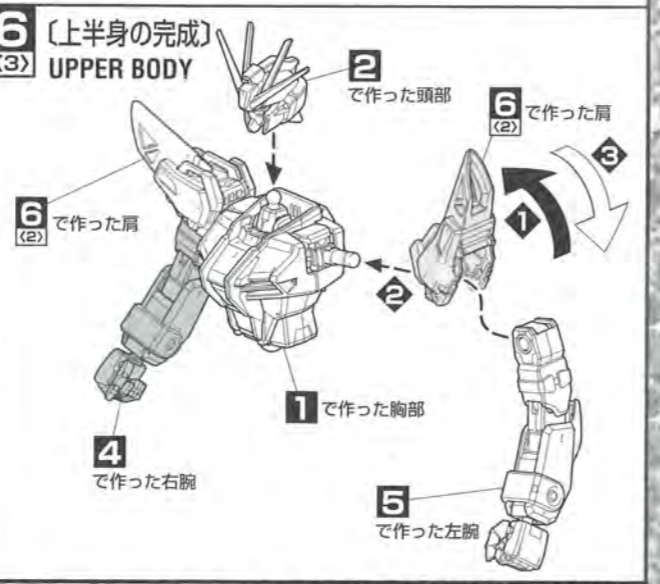
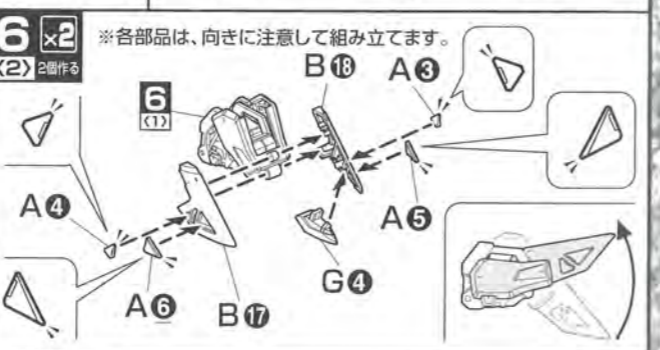
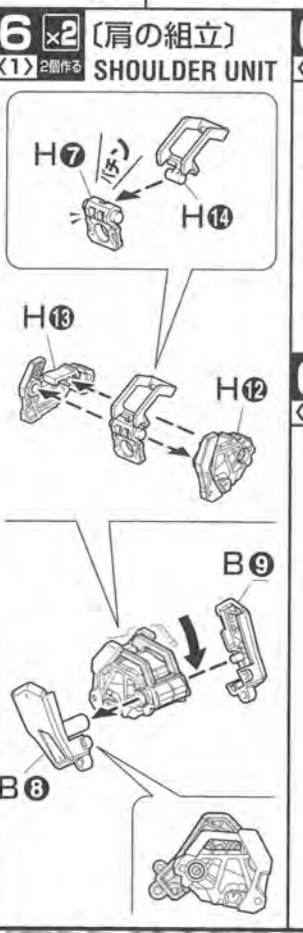
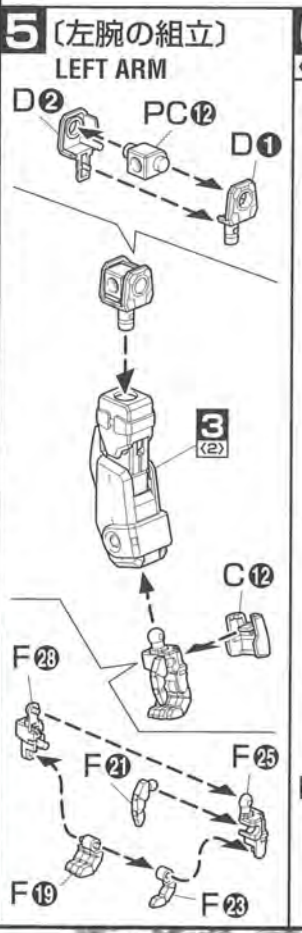
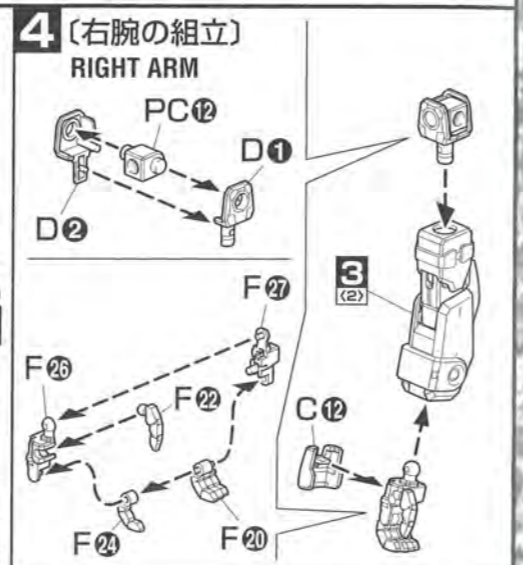
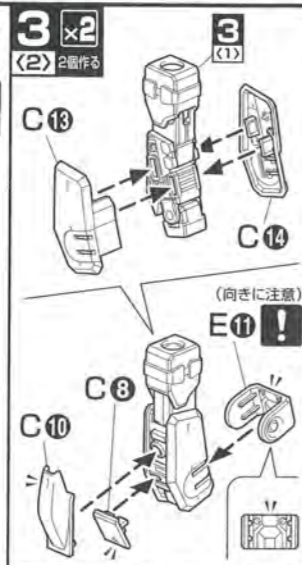
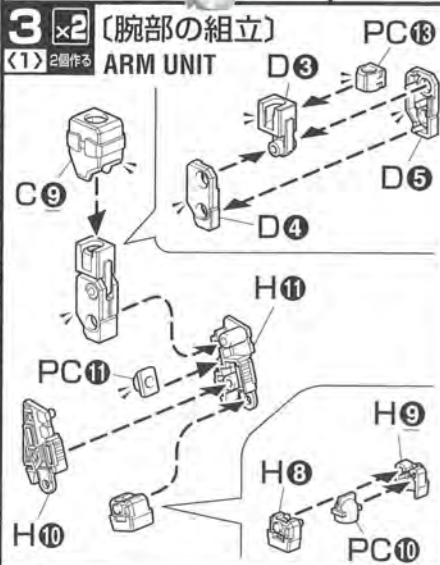
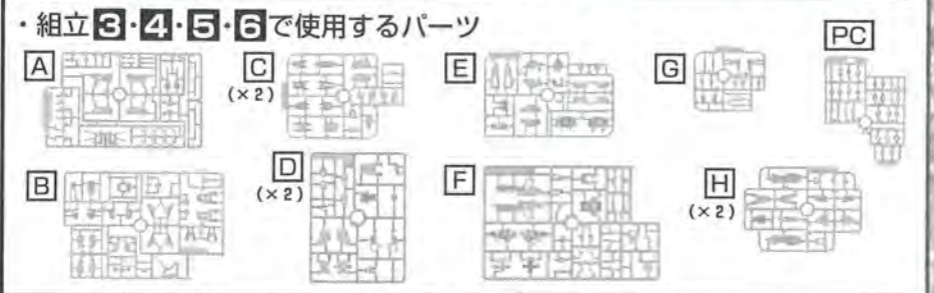


アンカーランチャー  
両腕、両脚部に内装されたアンカーランチャーは、近接戦闘において高い威力を発揮する装備である。対象物にアンカーを貫入、またはワイヤーを絡ませて破壊、牽引するなど多彩な運用が可能である。単分子繊維の芯線を高機能性高分子ポリマー層でコーティングしたワイヤーは、1G環境下で総重量100t前後の敵モビルスーツを捉え、振り回しても切断されないほど高い強度を持っている。

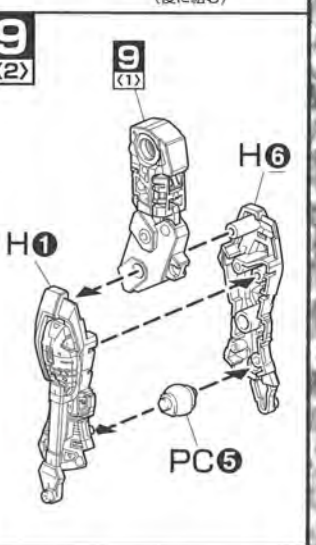
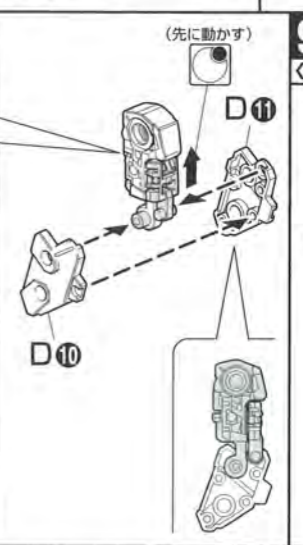
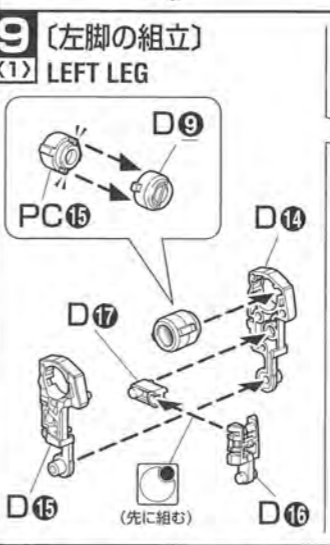
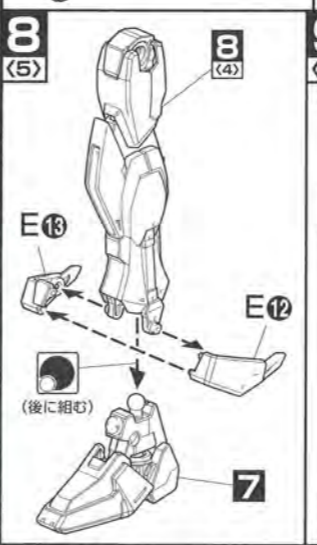
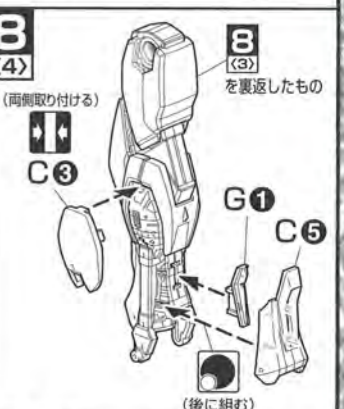
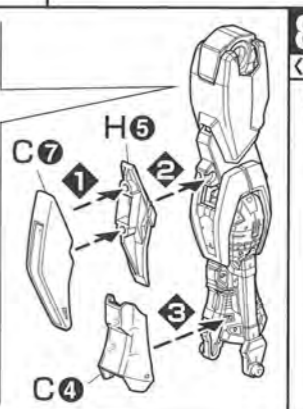
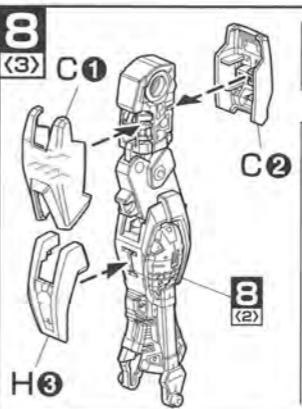
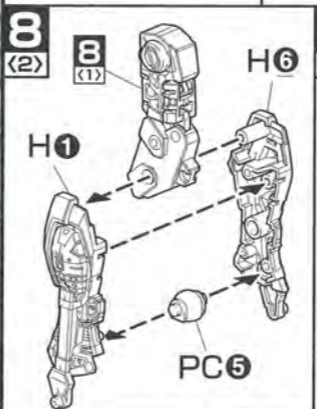
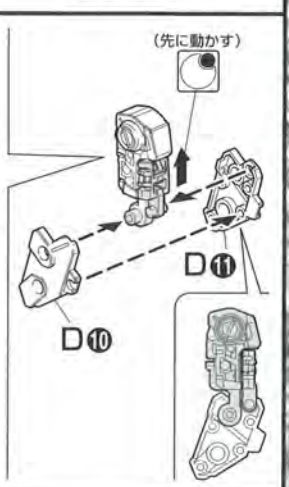
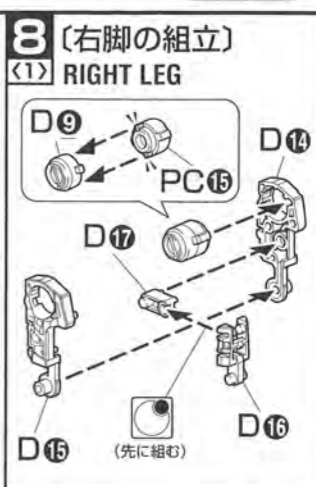
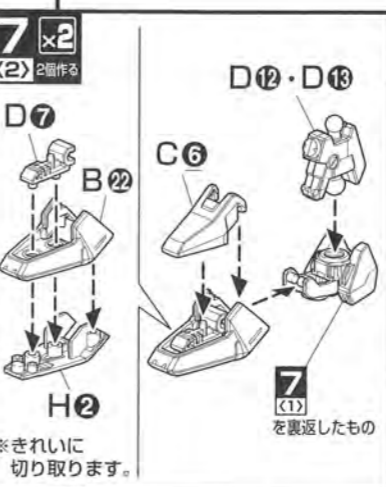
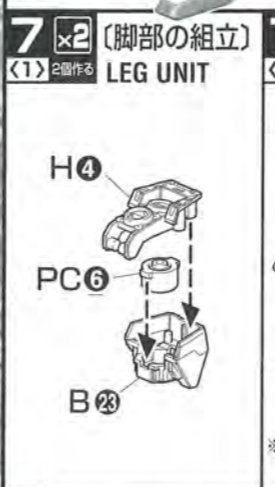
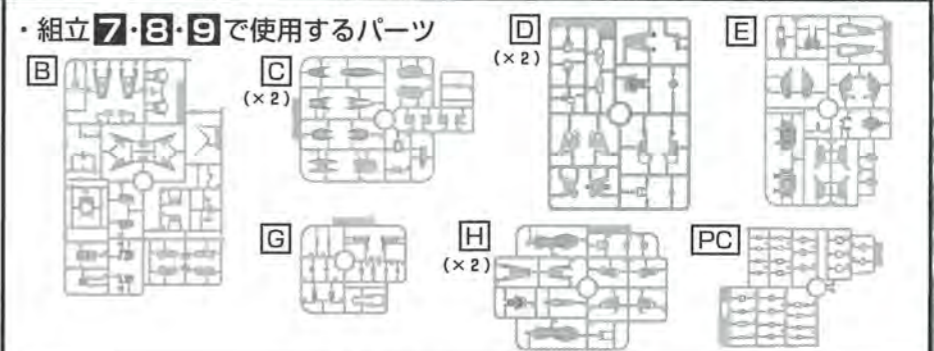


(基本説明) HOW TO  
 (部品表) PARTS LIST  
 (胸部) BODY UNIT  
 (頭部) HEAD UNIT  
 (腕部) ARM UNIT  
 (脚部) LEG UNIT  
 (腰部) WAIST UNIT  
 (完成) FINAL ASSEMBLY  
 (ノールストライカー) NOIR STRIKER UNIT  
 (武器) WEAPONS  
 (シール) SEAL

### 3 4 5 6 ARM UNIT



### 7 8 9 LEG UNIT



(基本説明) HOW TO  
 (部品表) PARTS LIST  
 (胸部) BODY UNIT  
 (頭部) HEAD UNIT  
 (腕部) ARM UNIT  
 (脚部) LEG UNIT  
 (腰部) WAIST UNIT  
 (完成) FINAL ASSEMBLY  
 (ノールストライカー) NOIR STRIKER UNIT  
 (武器) WEAPONS  
 (シール) SEAL





# SECRET ATTACK

ユーラシア連邦ロシア領、ノヴォズネツク市街の南南東約400キロの山岳地帯にザフトが建設した施設を攻撃するストライクノワール。戦闘がおこなわれた時期がC.E.73であること以外、正確な日付の記録はない。おそらくは、連合がプラントに対して宣戦するよりも前の作戦であったと思われる。これは明らかに戦争法に反する行為だが、ザフトの施設が、軌道から降下する強襲揚陸部隊の支援設備に転用可能な量子通信の研究施設であったことから、開戦前にザフトの機先を制するための秘密攻撃を敢行したと思われる。非正規部隊としてのファントムベインの性格を示す典型的な作戦といえよう。この戦闘で、ストライクノワールはMBF-SB1ビームライフルショーティーではなく175mmグレネードランチャー装備57mm高エネルギービームライフルを使用している。このライフルはGAT-X102デュエルのために開発されたモデルだが、その性能を高く評価するパイロットは多く、スウェン・カル・バヤン中尉もしばしばこのライフルで作戦に参加している。

# GUARD IN SNOWSTORM

陸上戦艦を護衛するファントムベイン。部隊の性質上、護衛任務を任せられることは珍しく、貴重なシーンといえることができる。正確な日時や地名、戦艦の名称などは明らかではないが、おおよその資料を総合すると、初の実戦に投入される直前のGFAS-X1 デストロイの輸送部隊を護衛していた際の記録ではないかと推測される。この輸送部隊の動向はザフトの知るところとなり、TMF/A-802W2 ケルペロスバウハウンドを主力とするモビルスーツ隊に攻撃された。このことから、ザフトでは積雪の多い平原のような地形での戦闘には、四足獣型モビルスーツがもっとも適していると判断していたことがわかる。戦力においては劣勢に立たされながらも、ストライクノワールはアンカーを巧妙に駆使した戦闘を繰り広げ、相当数の敵機を撃破した。これは、近接戦闘におけるアンカーランチャーの有効性を如実に物語るものといえるだろう。事実、ファントムベインは敵を撃退することに成功し、デストロイを無事にドイツへ送り出したようである。なおこの戦闘で、スウェンたちはミュードィー・ホルクロフト少尉とGAT-X1022 プルデュエルを失っている。



# MISSING IN ACTION

DSSD (深宇宙探査開発機構)の地球軌道トロヤ点周回ステーションを強襲するファントムベインのストライクノワール。このステーションでは、宇宙探査開発用モビルスーツGSX-401FW スターゲイザーの開発が進められていた。スターゲイザーは非武装のモビルスーツで、深宇宙における無人自律運用を可能とすることを目的に、独自の高性能AIと惑星間推進システムを搭載していた。ファントムベインは、この機体のテクノロジーの強奪を目的に派遣されたものと思われる。当初、作戦はファントムベインの一方向的勝利に終わるものと思われた。しかしDSSDの自衛戦力が事前の推定を上回るものであったこと、さらに未完成と思われていたスターゲイザーが戦闘に参加したことで戦力バランスが拮抗し、激しい全面衝突へと発展した。その結果は悲劇的なもので、ファントムベインは母艦ナナルクを喪失。またGAT-X103AP ヴェルデバスターのパイロット、シャムス・コーザ中尉も戦死し部隊は壊滅に陥った。ストライクノワールはスターゲイザーと相討ちの形で失われ、バヤン中尉自身はMIA (戦闘中行方不明)として記録されている。

© 創通・サンライズ

## STARGAZER

スターゲイザー その眼差しは星々の彼方  
遥かなる人の未来へ...

アニメ「機動戦士ガンダムSEED DESTINY」と同じ時間軸上の物語。

スウェンらファントムベインは、DSSDのトロヤステーションを強襲した。次々に倒されていく仲間を救うため、セレーネとソルはスターゲイザーで迎え撃つ。

地球連合軍第81独立機動群、通称「ファントムベイン」は、ブルーコスモスの最高意思決定機関「ロゴス」に所属する不正規特殊部隊。X105E ストライクノワール(スウェン機)、X1022 プルデュエル(ミュードィー機)、X103AP ヴェルデバスター(シャムス機)を組み合わせた小隊編制で各地を転戦し、すぐれた戦果を上げている。

## PHANTOM PAIN

GSX-401FW スターゲイザー

セレーネ・パクグリフ

ソル・リョーネ・ラングレイ

GAT-X105E ストライクノワール

GAT-X1022 プルデュエル

GAT-X103AP ヴェルデバスター

スウェン・カル・バヤン中尉

ミュードィー・ホルクロフト少尉

シャムス・コーザ中尉

# PAINTING

※よりリアルに仕上げたい場合は、下の基本色をご覧ください。 ※塗装にはより安全な「水性塗料」のご使用をおすすめします。  
※ABS部分への塗装は破損する恐れがありますので、塗装はお勧めできません。 ※カラー配合は参考値であり、写真とカラーガイドの色は異なる場合があります。

## ストライクノワールガンダム

	本体等ホワイト部の塗装色。 ホワイト(100%) + ブラック(少量) + ネービーブルー(少量)		腹部等レッド部の 塗装色。 モンザレッド(100%)
	胸部等ダークグレー部の 塗装色。 ミッドナイトブルー (100%)		ビームライフルショーティー等 ブルーグレー部の塗装色。 ミディアムブルー(85%) + ホワイト(25%) + パープル(10%)
	アンテナ部等イエロー部の 塗装色。 イエロー(45%) + ホワイト(35%) + オレンジ(20%)		目 クリアイエロー部の 塗装色。 クリアイエロー(100%)
	後脚部センサー等 ブルーグレー部の 塗装色。 スカイブルー(100%)		顔センサー クリアブルー部の 塗装色。 クリアブルー(100%)

## スウェン・カル・バヤン

	ノーマル・スーツ ホワイト部の塗装色。 ホワイト(100%)		ノーマル・スーツ グレー部の塗装色。 ニュートラルグレー (90%) + ホワイト(10%)
	ノーマル・スーツ レッド部の塗装色。 レッド(90%) + ピンク(10%)		顔 肌色の 塗装色。 はだ色 (100%)
	ノーマル・スーツ ダークグレー部の 塗装色。 ミッドナイトブルー (100%)		ノーマル・スーツ ブルーグレー部の 塗装色。 ミディアムブルー (100%)

### ワンポイントステップ

スミ入れしてみよう!!

ガンダムマーカー/スミ入れ用(別売り)などを使用して、ミノの所に線を引くことで、見た目の印象が引き締まります。

[before]

[after]



▲ ノワールストライカーのビームブレイドは着脱式。リアガン発射形態や、飛行形態への変形を始め、幅広い可動範囲を持つウイングが多彩なアクションポーズを演出。

▲ ウイング基部にギミックを追加することで肩の可動を妨げない。

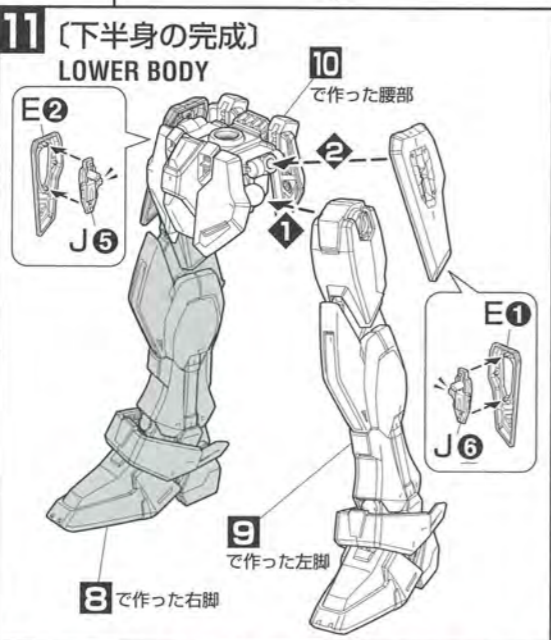
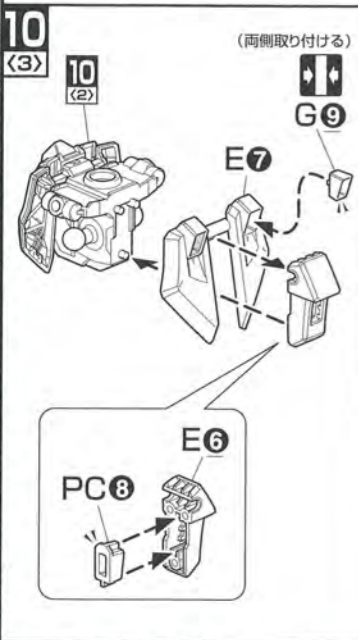
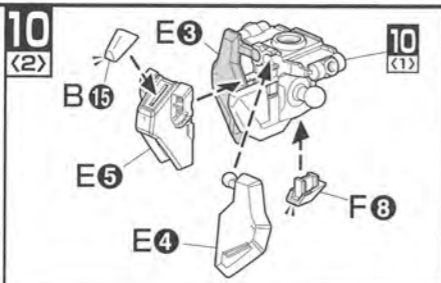
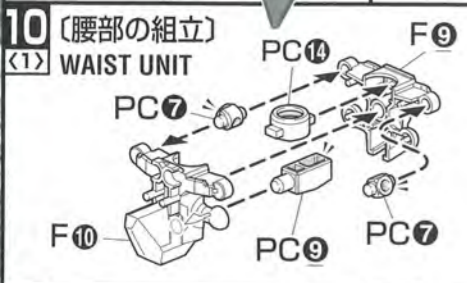
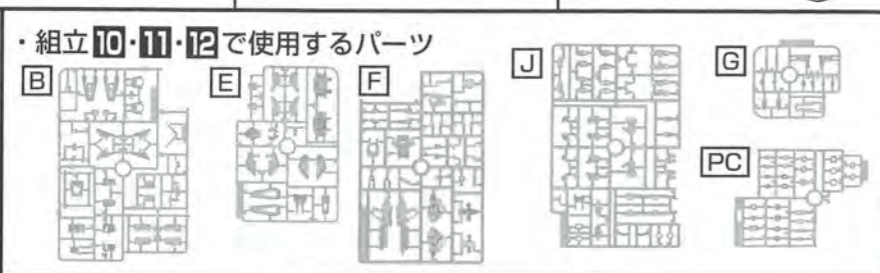
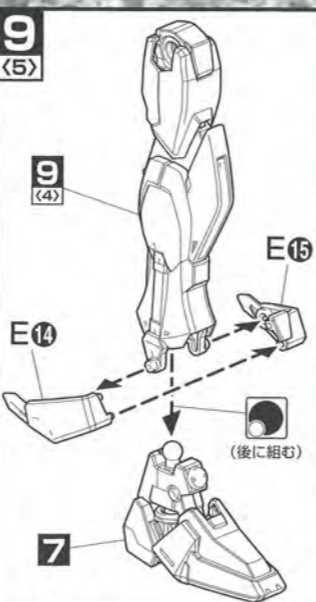
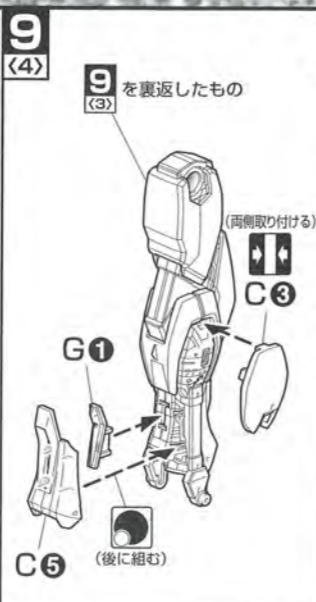
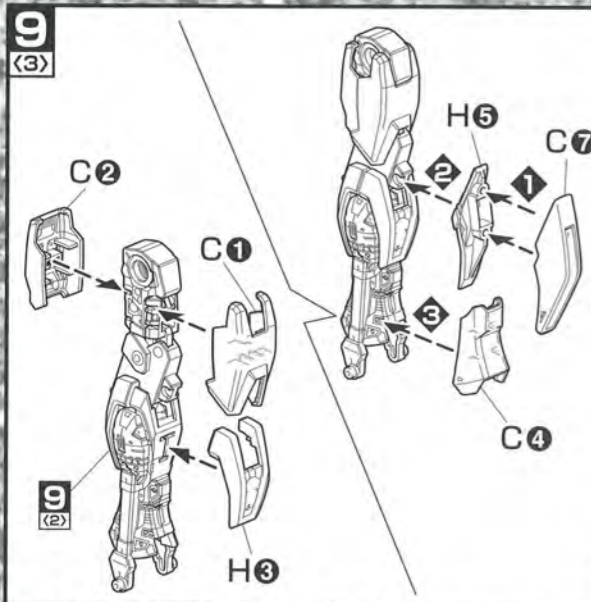


▲ 特徴的な武装であるアンカーランチャーは掌、背中、足裏からの発射状態を、自在に表情のつけられるリード線で表現。

▲ ノワールストライカーを外した「ストライクE」のストライカー接続部分はMGシリーズの他X105系と共通の為、各種ストライカーバックを装着可能。



(基本説明) HOW TO  
 (部品表) PARTS LIST  
 (胸部) 1 BODY UNIT  
 (頭部) 2 HEAD UNIT  
 (腕部) 3 4 5 6 ARM UNIT  
 (脚部) 7 8 9 LEG UNIT  
 (腰部) 10 11 WAIST UNIT  
 (完成) 12 FINAL ASSEMBLY  
 (ノールストライカー) 13 14 15 NOIR STRIKER UNIT  
 (武器) 16 ~ 22 WEAPONS  
 (シール) SEAL



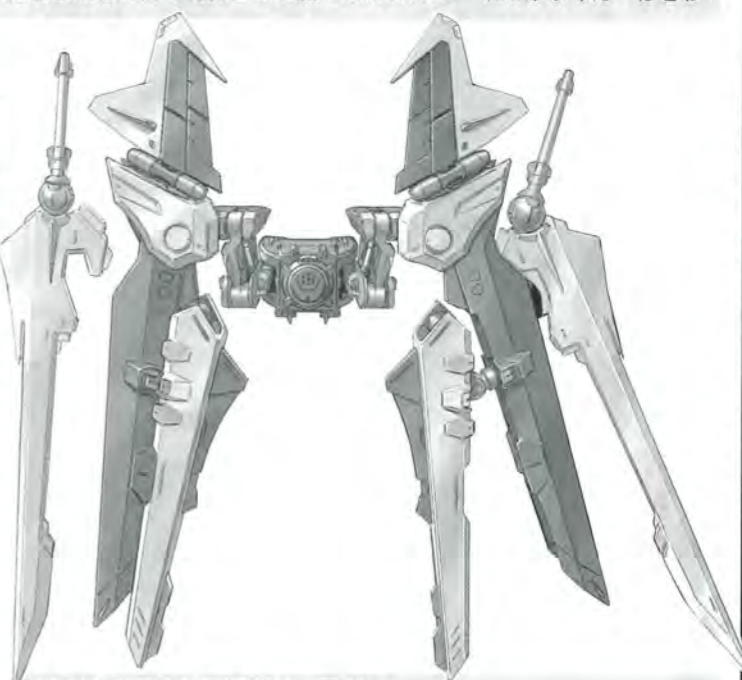
# NOIR STRIKER UNIT (ノールストライカー)

AQM/E-X09Sノールストライカーは、AQM/E-M1 IWSP (統合兵装ストライカーバック) をベースに開発されたストライカーバックである。その基本思想は、単独であらゆる戦況に対応することを目的に開発された多目的ストライカーIWSPの発展型だ。

飛行能力、長距離砲撃能力、近接格闘能力など、ノールストライカーではすべての性能においてザフトの主力モビルスーツを圧倒することが求められた。開発当初、技術陣はZGMF-1017ジンのスペックを40パーセント向上させた仮想モデルを仮想敵に想定した。しかしこの想定がまったく無意味であることはすぐ明らかとなり、設計方針から撤回された。兵器としての万能性を備えたまま、その特性を近接戦闘に振り向け特化させた点において、ノールストライカーはきわめてユニークな性格を獲得することになった。

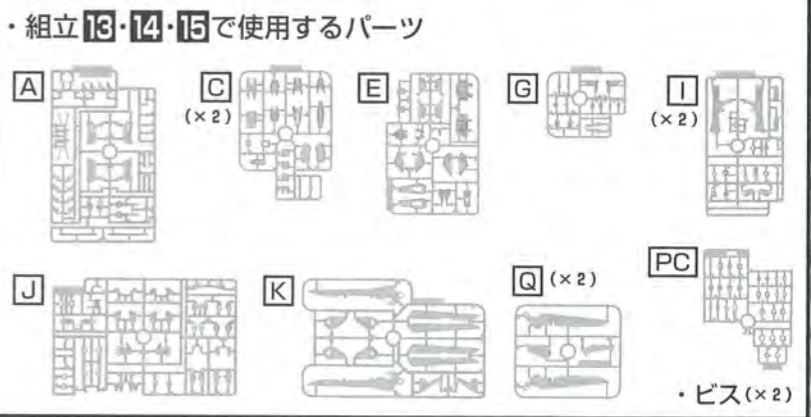
本機の開発を要求したファントムベインは、表面上は連合軍の指揮系統内にあるものの、その本質は純然たるロゴスの私兵部隊である。軍規や戦争法などのモラルにはまったく制約されないことなく、戦史の表舞台で語られることのない謀殺・破壊・非戦闘員攻撃など、いわゆる「汚い」対コーディネーター戦を遂行する影の軍隊であり、そのためアクタイオン社にノールストライカーの開発を指示する際にも、その存在を表に明かすことがないよう、同社の大株主であるロゴス幹部を通じて裏ルートから発注がなされるという特別の配慮が払われた。

本機では、装甲のPS化がノールストライカー本体にまで拡張適用されている。これはパワーバックの高容量化技術の進展により実現したが、PS装甲部材自体の生産性は依然低いままであった。そのため、完全な形で完成したノールストライカーの数量は二桁に満たないと推測される。運用には、IWSP同様パイロットに高い練度が求められるため、通常の部隊に本機が供給された記録はない。前大戦停戦後、ファントムベインはモビルスーツのパイロットをナチュラルからエクステンデッドへ段階的に切り換えていった。そのため、スウェン機以外のノールストライカーはエクステンデッド兵の部隊に供与されたものと考えられる。しかしロゴスの崩壊後、それらの機体がたどった運命は不明のままである。



**MAU-M3E4 二連装リニアガン**  
ノールストライカーに搭載された二連装リニアガンMAU-M3E4はその型式番号が示す通り、連合のベストセラーリニアガンユニットMAU-M3シリーズの発展形である。M3シリーズはモビルアーマーなどにも搭載され、高い信頼性と抜群のコストパフォーマンスを誇る傑作火砲だ。M3E4は、高速連射性能と省電力化にポイントを置いたセッティングが施された近接戦闘に特化したモデルである。

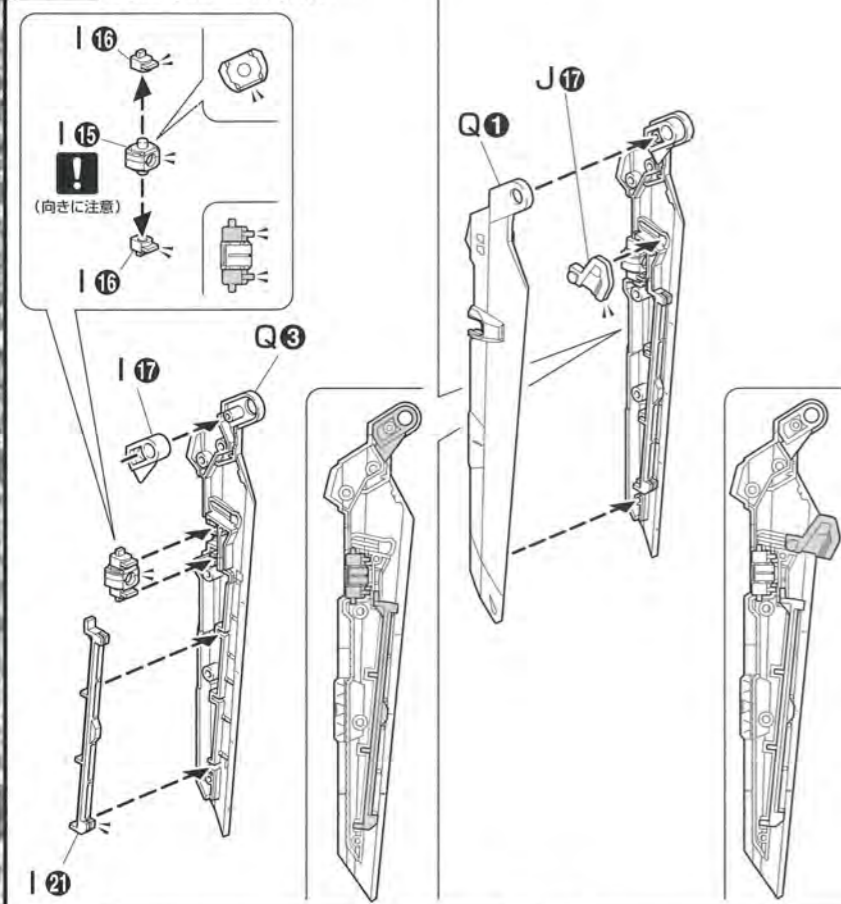
# 13 14 15 NOIR STRIKER UNIT



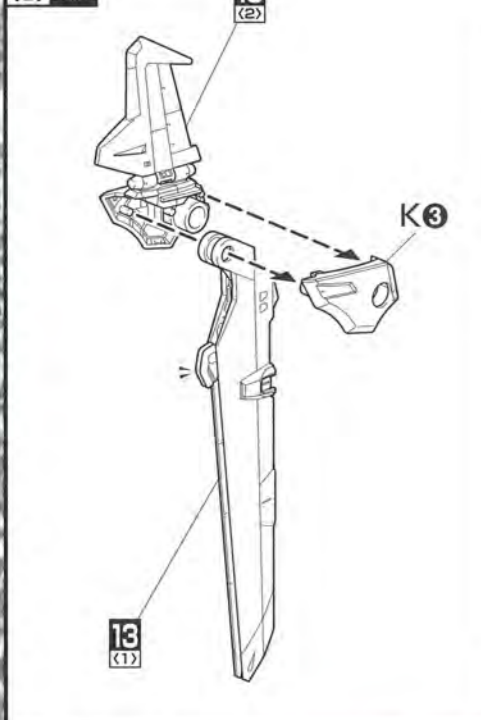


13x2 (ノールストライカーの組立)

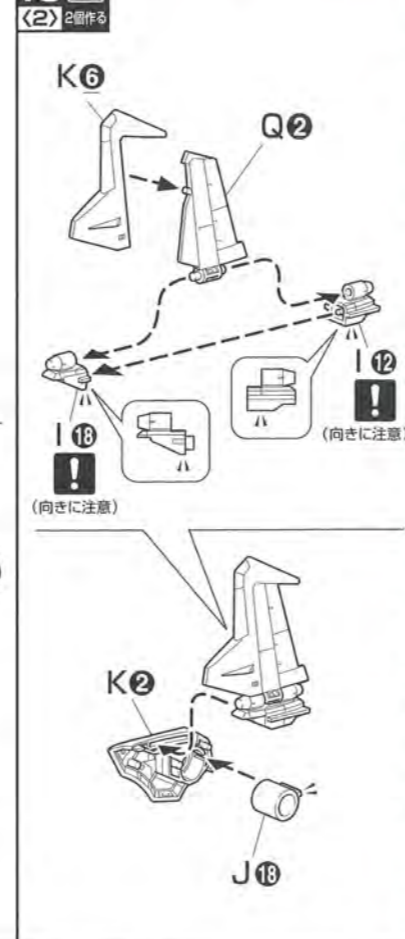
13x2 (1) 2個作る NOIR STRIKER UNIT



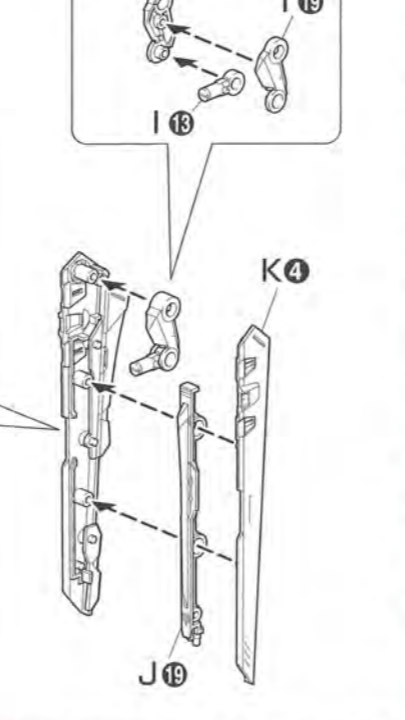
13x2 (3) 2個作る



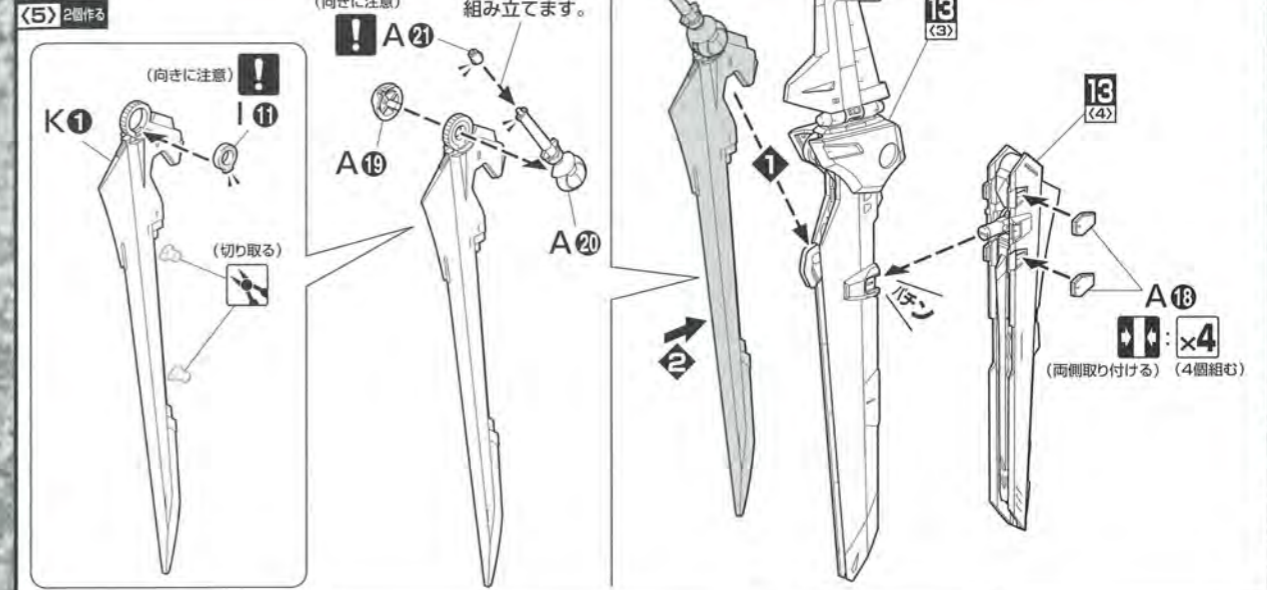
13x2 (2) 2個作る



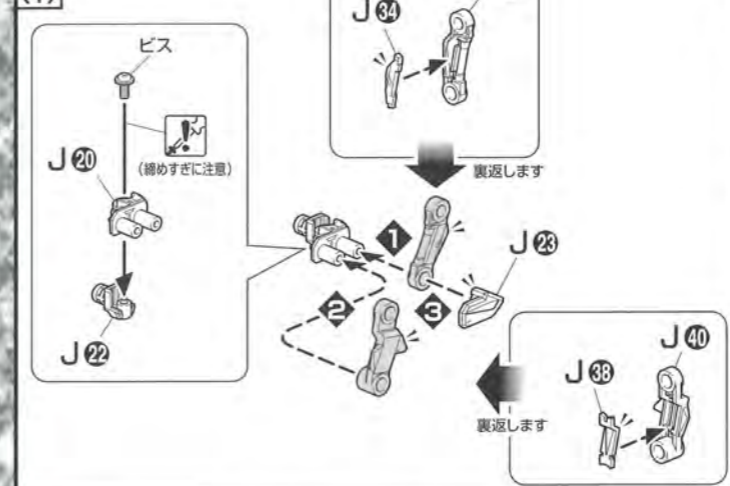
13x2 (4) 2個作る



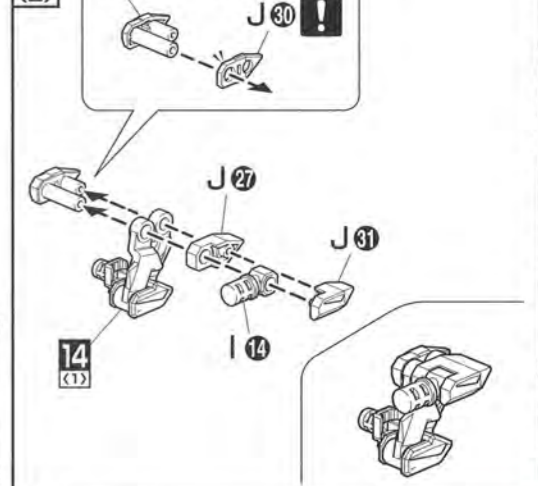
13x2 (5) 2個作る



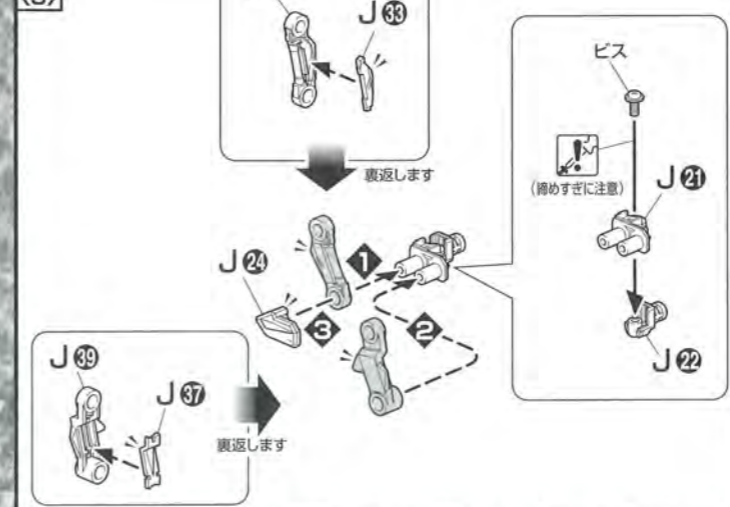
14 (1) 2個作る



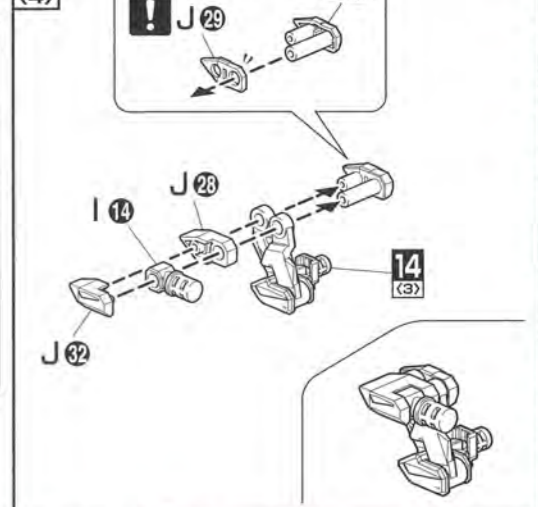
14 (2) 2個作る



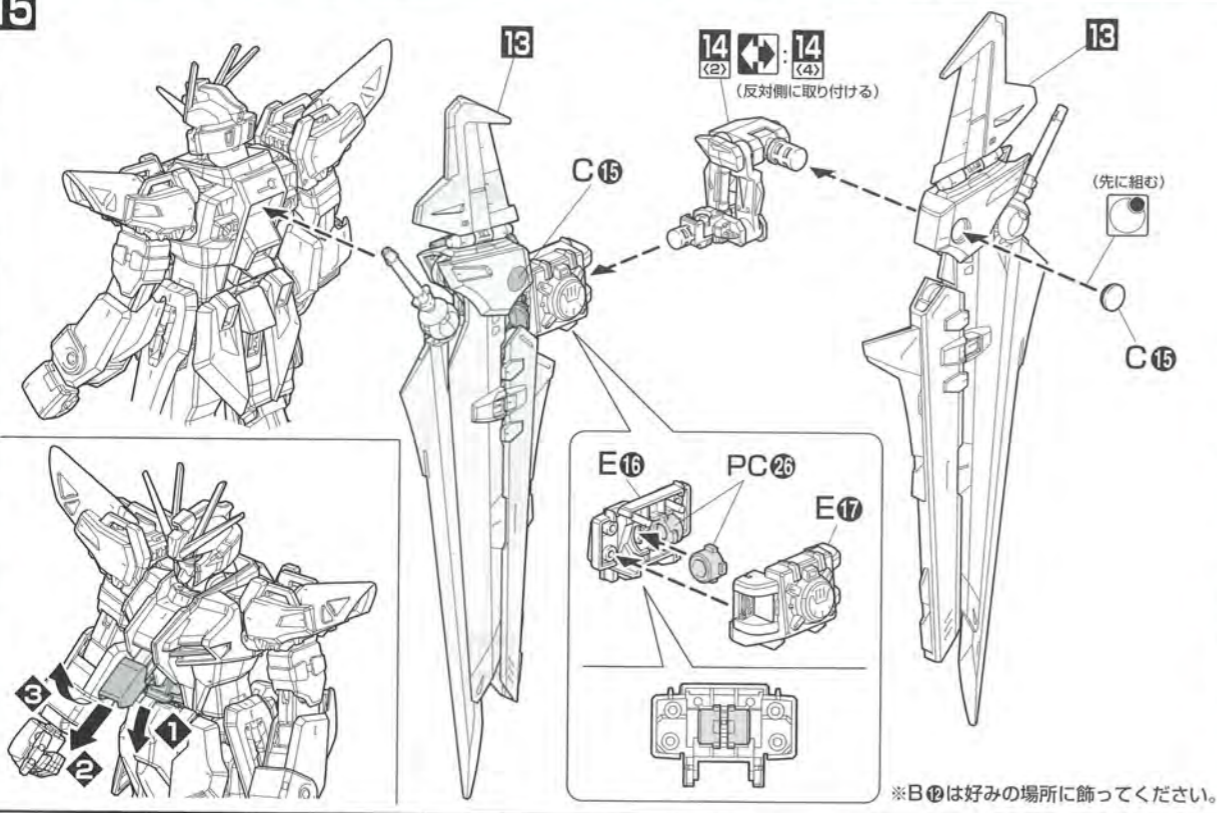
14 (3) 2個作る



14 (4) 2個作る

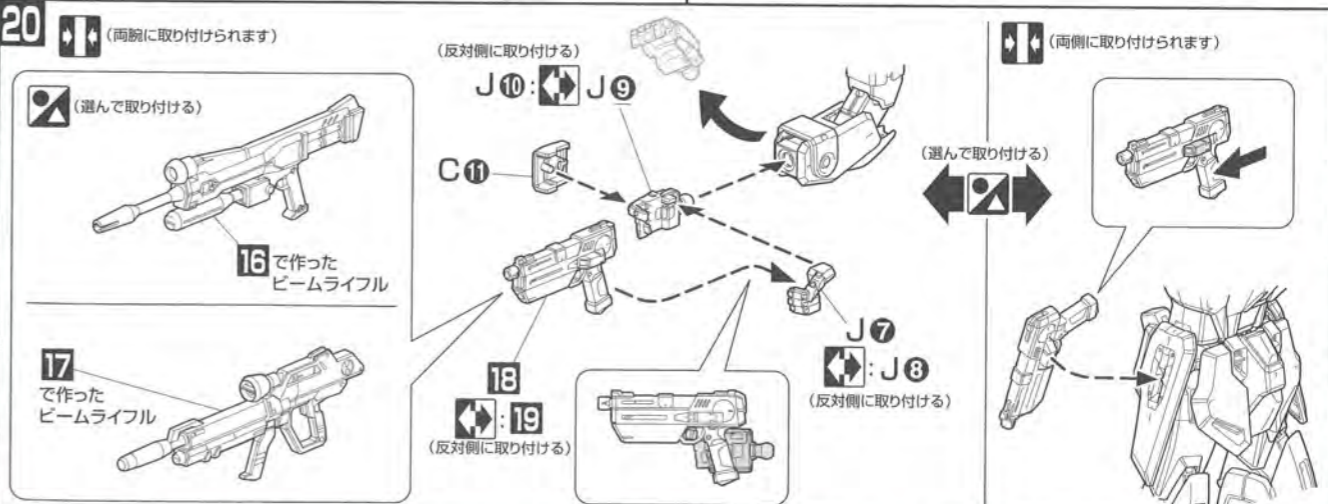
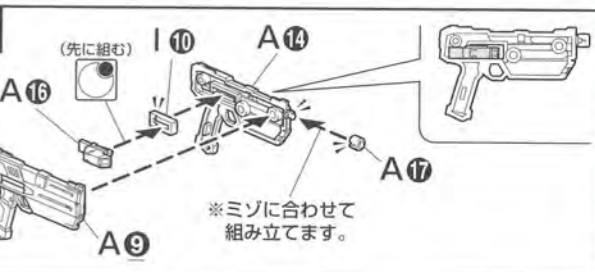
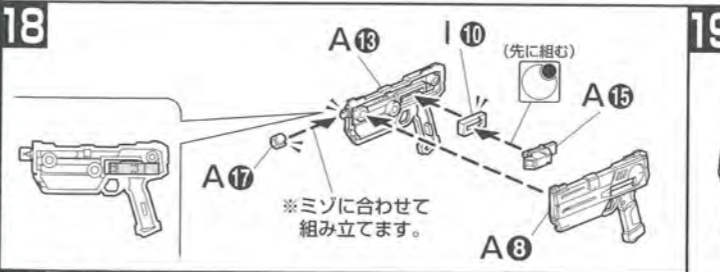
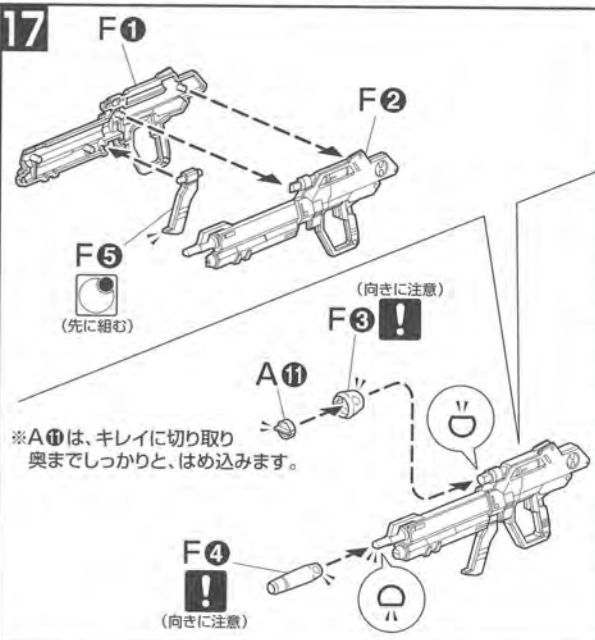
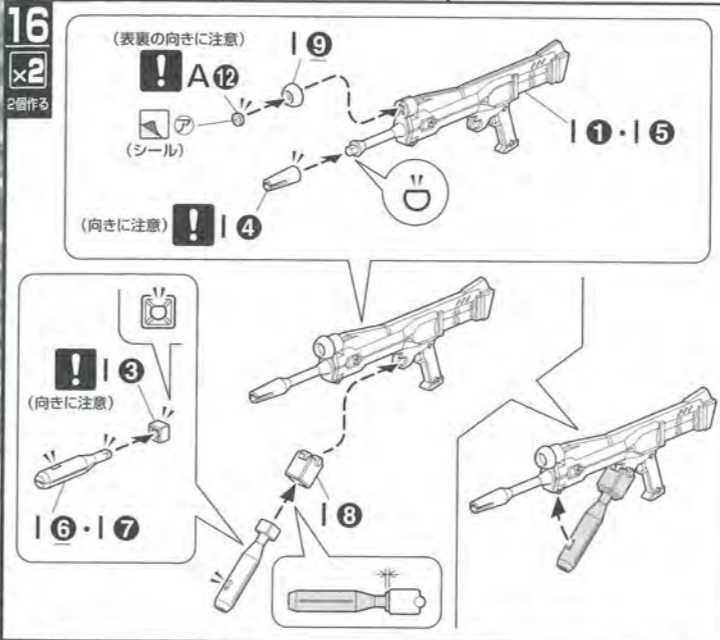
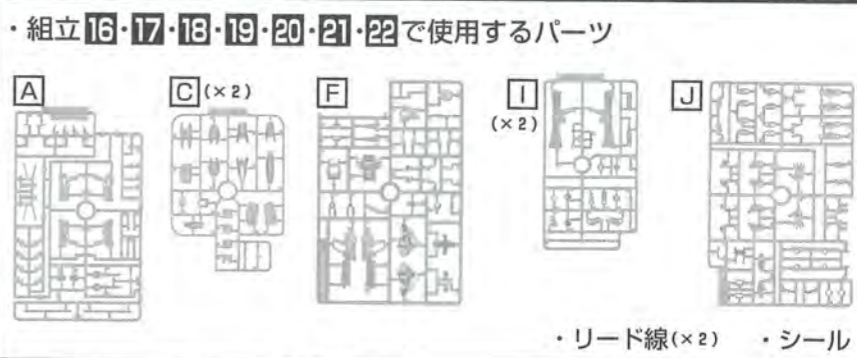
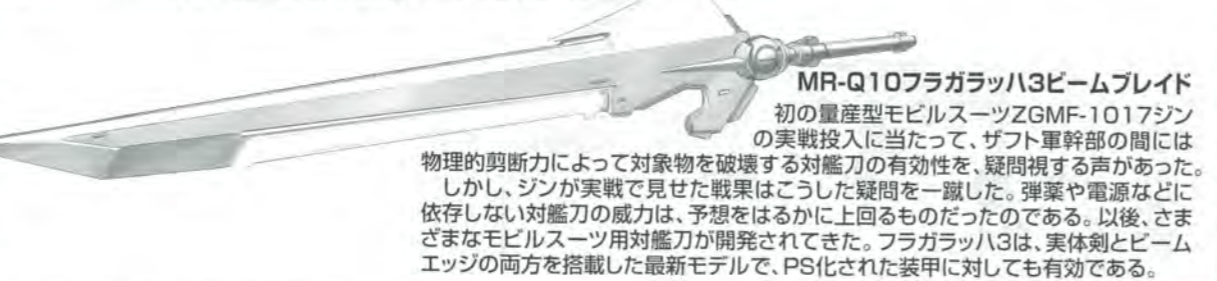
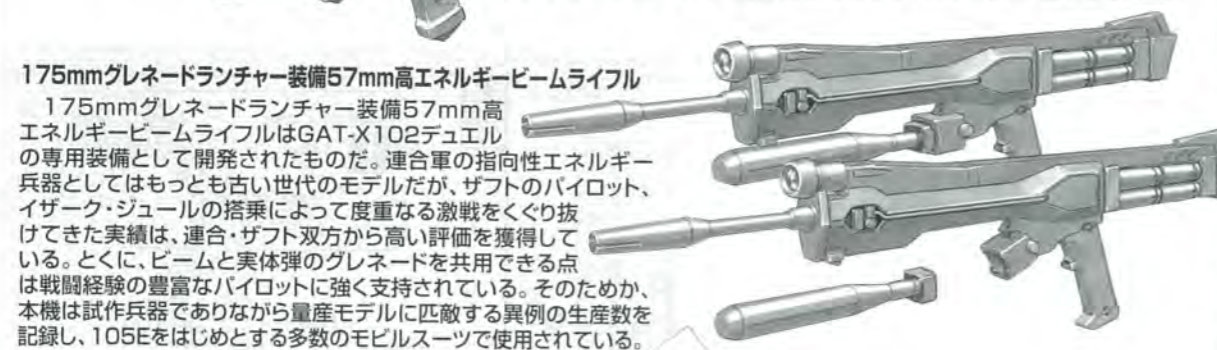




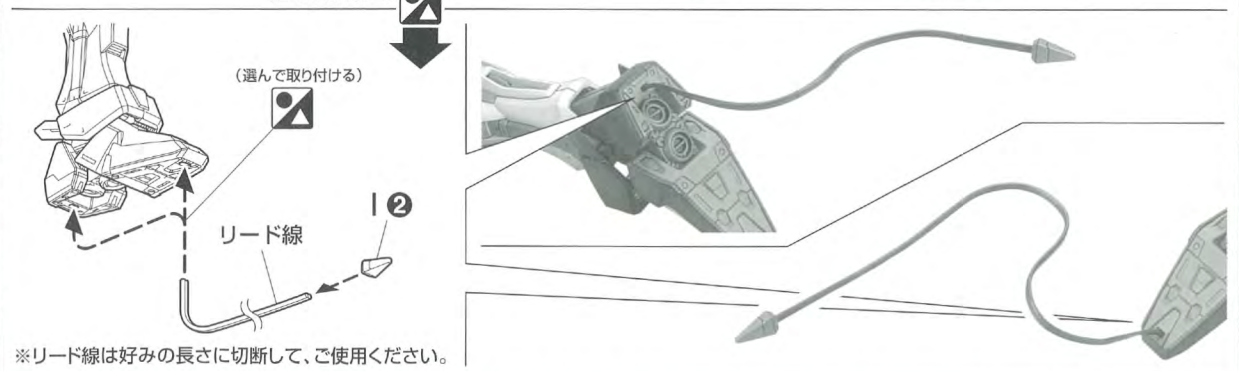
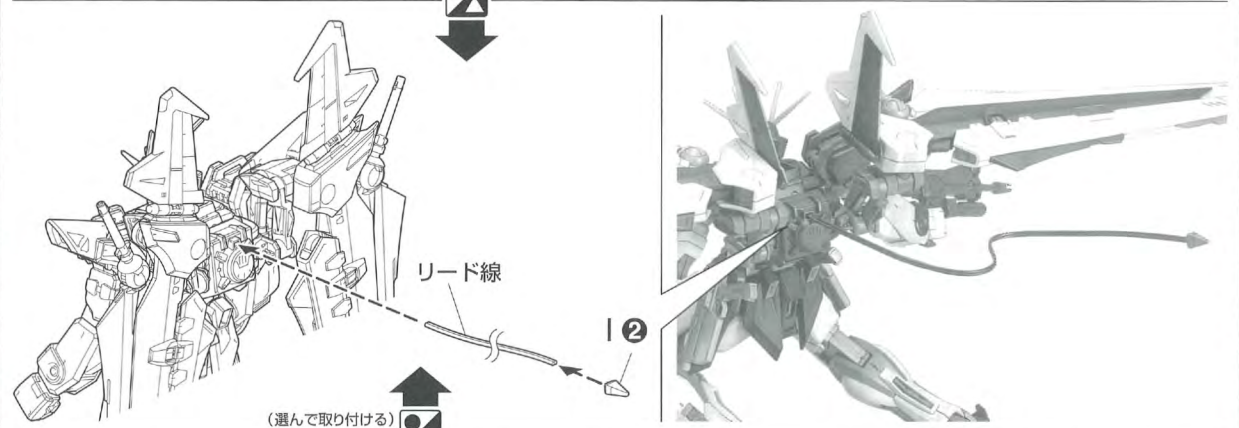
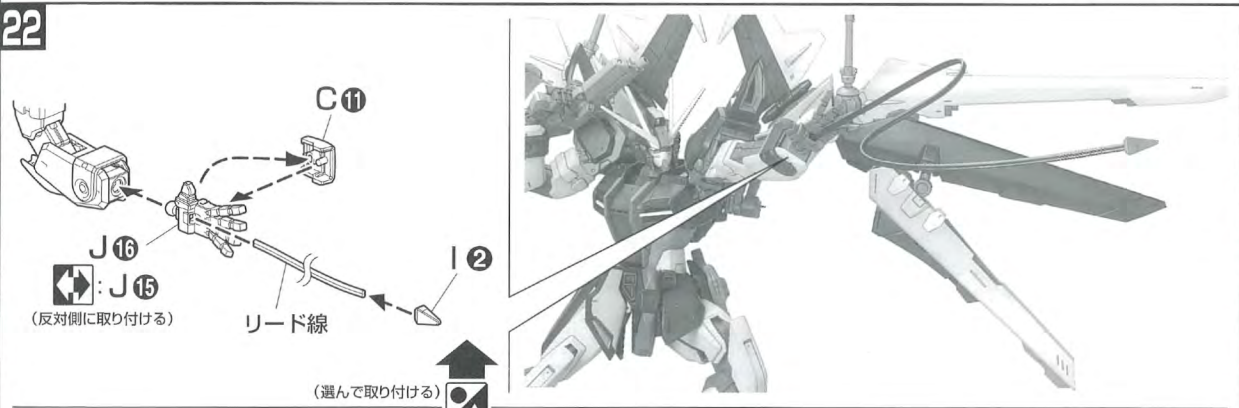
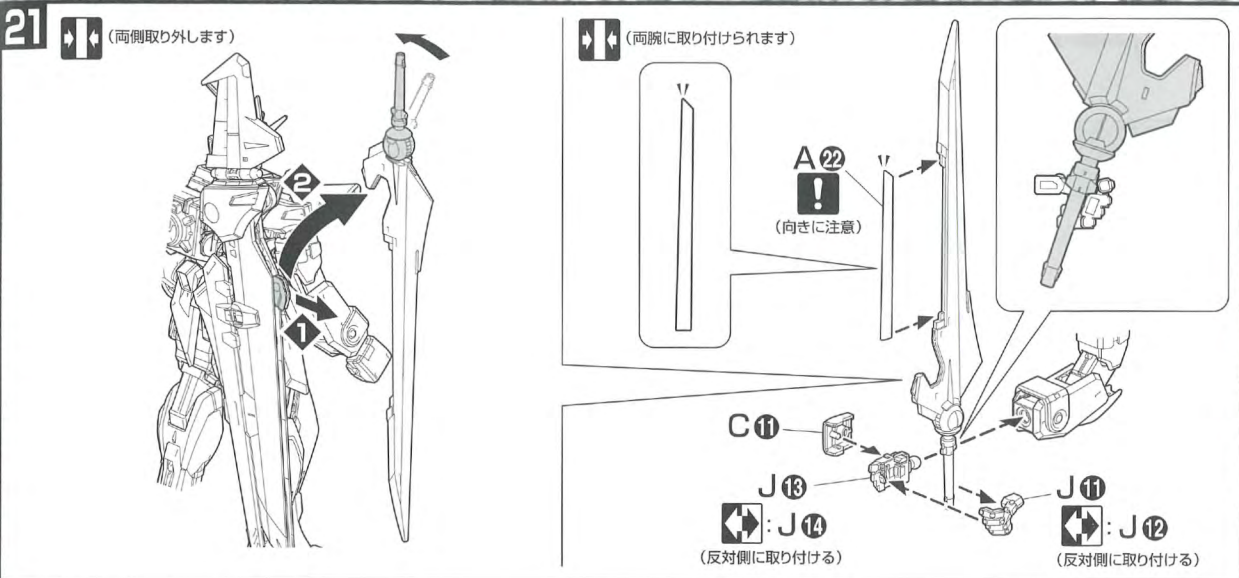


**WEAPONS**  
**(武器)**

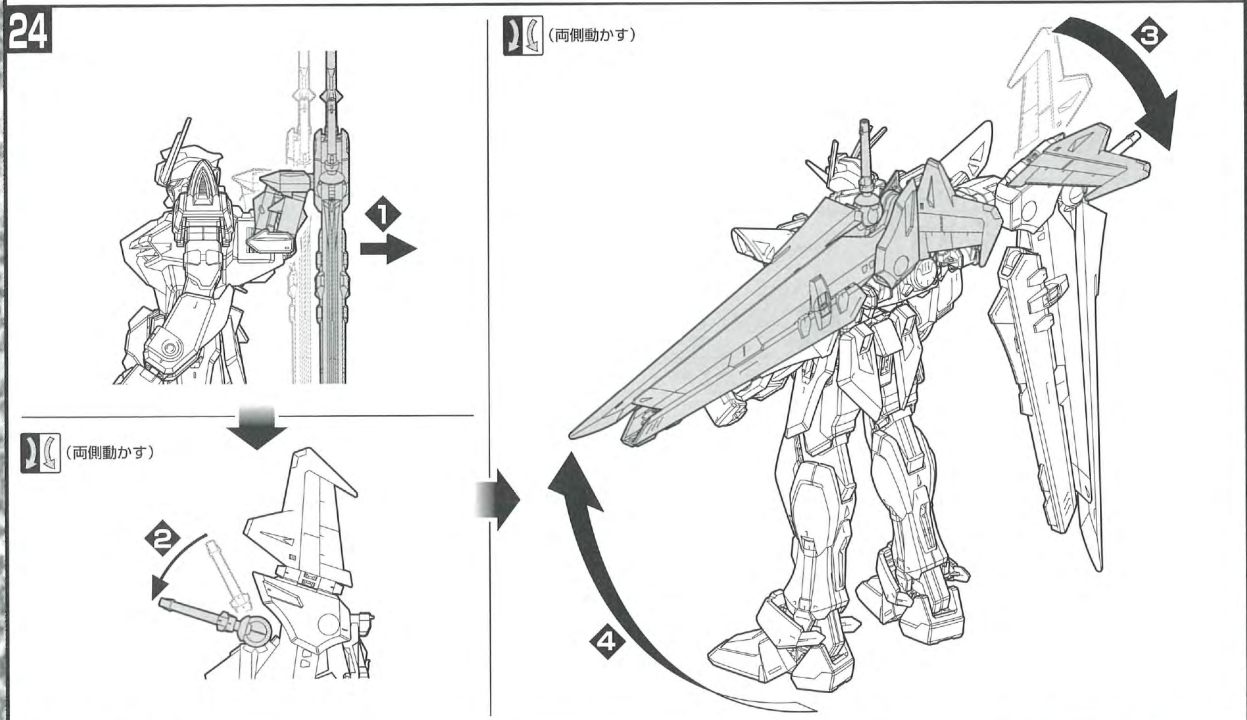
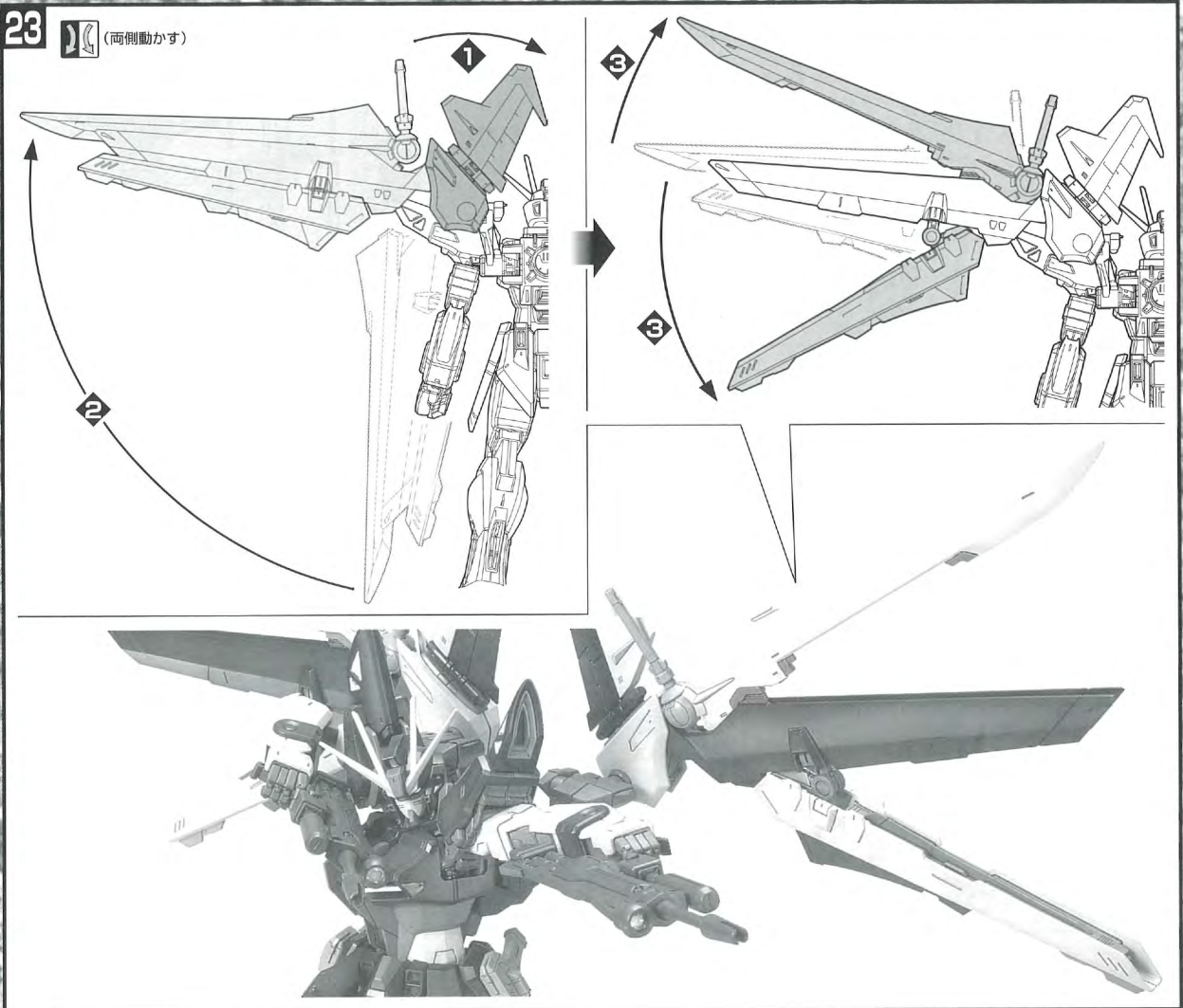
**M8F-SB1ビームライフルシューター**  
 機動性と瞬発力を求められる近接戦闘では、フルサイズのビームライフルは必ずしも最良の火器ではない。M8F-SB1ビームライフルシューターは、近接戦闘に特化したX105Eの運用思想にあわせ、フルサイズのビームライフルをシューター（短縮）化したモデルである。敵機との至近距離での格闘戦においても邪魔にならないよう、数度にわたるテストを経て開発された。完成した銃は、実質的にはモビルスーツスケールのハンドガンと言ってもよいほどコンパクトな機体となり、その取り回し性はきわめて良好である。なおビームの収束・誘導制御に大きな役割を果たす銃身長を切り詰めため、有効射程はフルサイズ機と比較して15パーセント低下している。



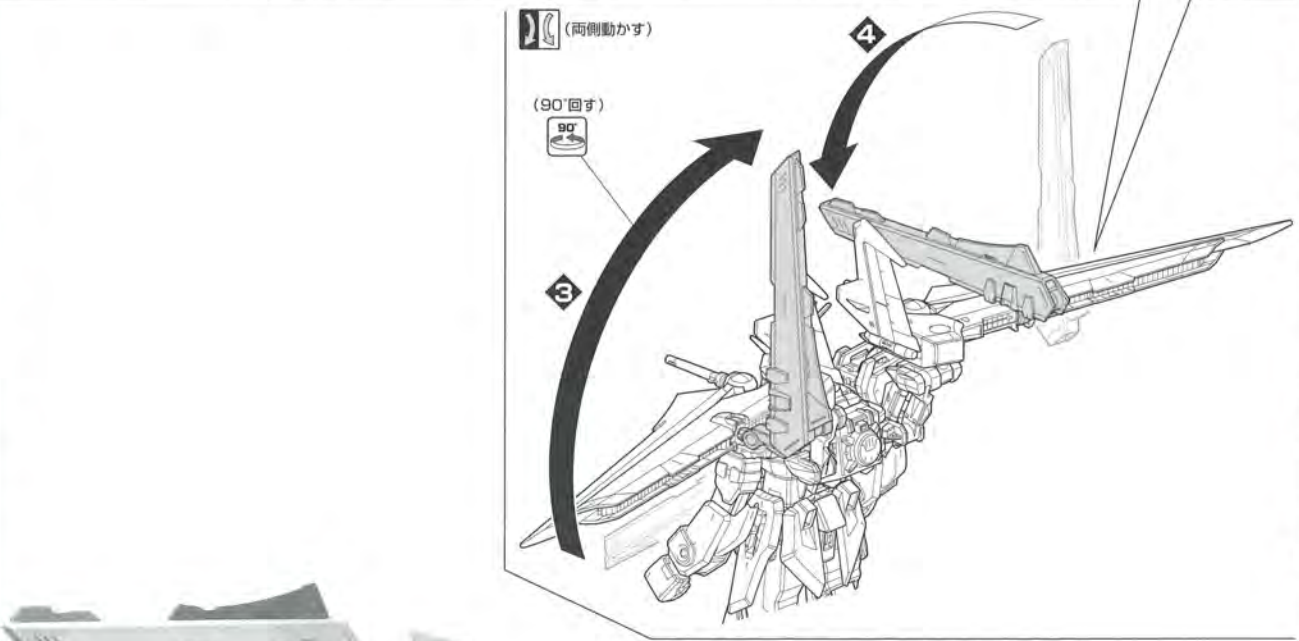
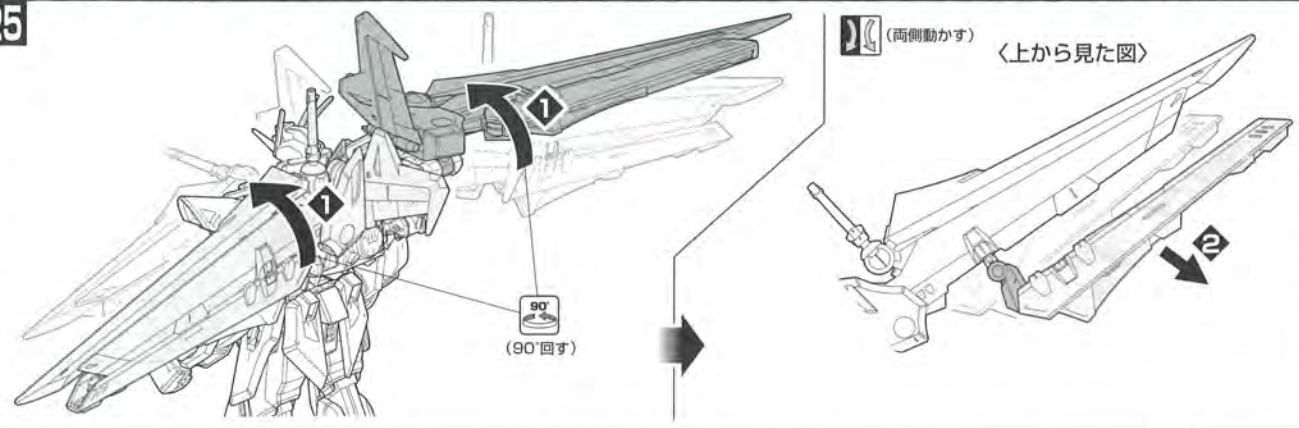




(基本説明) HOW TO	(基本説明) HOW TO
(部品表) PARTS LIST	(部品表) PARTS LIST
(胸部)1 BODY UNIT	(胸部)1 BODY UNIT
(頭部)2 HEAD UNIT	(頭部)2 HEAD UNIT
(腕部)3,4,5,6 ARM UNIT	(腕部)3,4,5,6 ARM UNIT
(脚部)7,8,9 LEG UNIT	(脚部)7,8,9 LEG UNIT
(腰部)10,11 WAIST UNIT	(腰部)10,11 WAIST UNIT
(完成)12 FINAL ASSEMBLY	(完成)12 FINAL ASSEMBLY
(ノールストライカー)13,14,15 NOIR STRIKER UNIT	(ノールストライカー)13,14,15 NOIR STRIKER UNIT
(武器)16~22 WEAPONS	(武器)16~22 WEAPONS
(シール) SEAL	(シール) SEAL





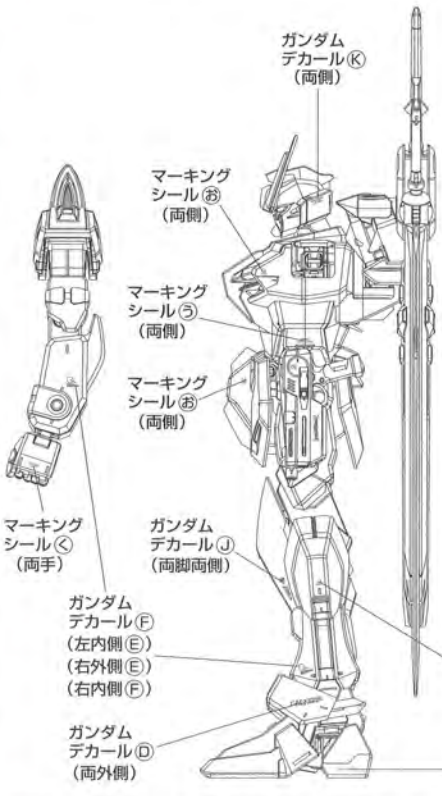
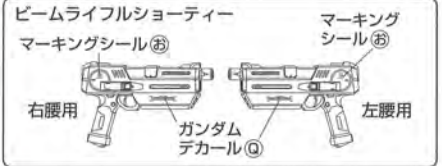
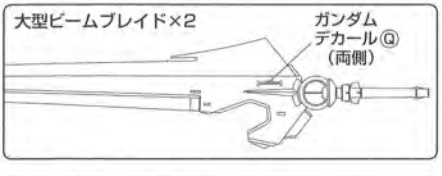
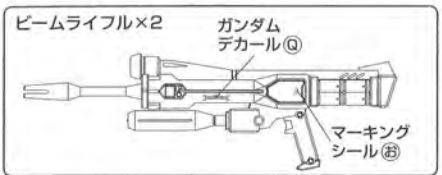


**Seal** (シール) 下の図を見て、マーキングシールやガンダムデカールの貼る位置を確認してください。

このマーキングシール及びガンダムデカール指示は一例です。イメージに合わせてお貼りください。

**ガンダムデカールの貼りかた。**

- 1.転写するマークを大きめに切り取ります。
- 2.転写する場所に軽く押さえ、ボールペン等の先の丸い物で上から軽くこすりつけます。
- 3.シート部分を静かにはがし、転写していない部分があれば、もう一度転写していない部分をこすります。



※余ったマーキングシールやガンダムデカールは好きな所に貼ってください。

